

誌雜合綜画映劇演

# 道頓堀

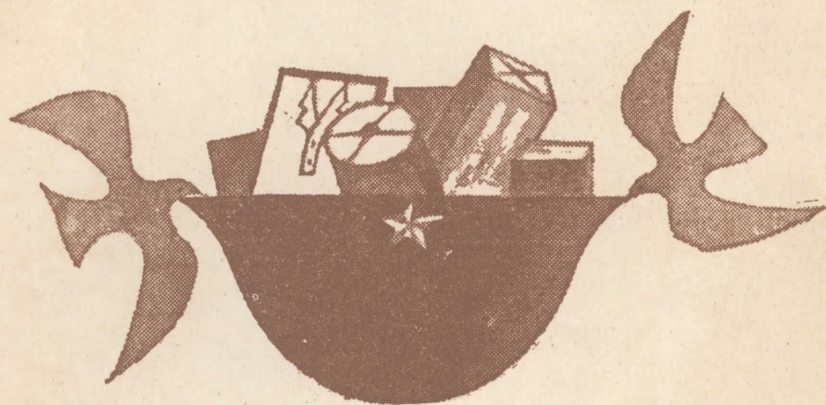
昭和二年十月廿五日第三種郵便認可  
昭和十四年十一月十五日發行（每月一圓）  
「道頓堀」第十四年第百五十六號




戦地へ真心こめた

慰問袋を送りませう

3階

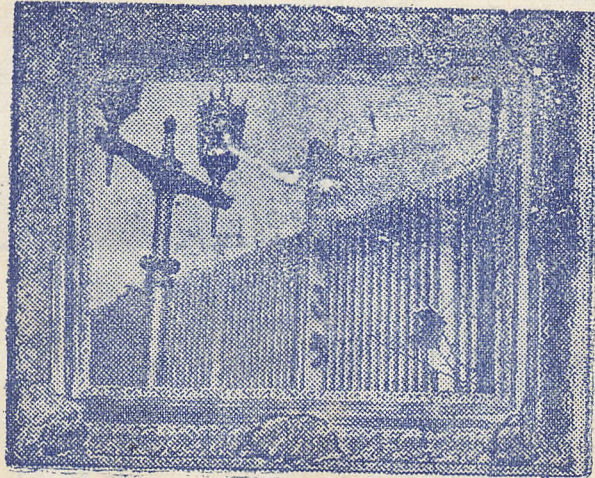


七階大食堂・二階大喫茶室は夜九時迄

 **大鐵百貨店**

大阪アベノ橋 電話 天王寺⑦代表5131番





物價國策に、物資配給に

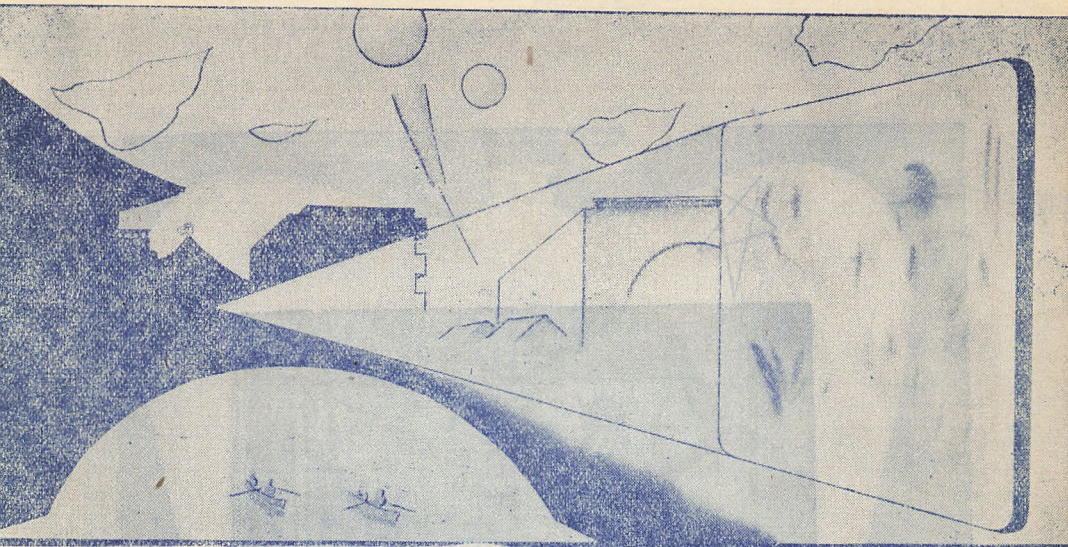
銃後の百貨店使命に  
邁進する「そごう」



大 阪  
心 齋 橋

そごう





目次  
道頓堀 第百五十六號

◆誌上舞臺◆

温泉紅葉	歌舞伎座	十一月興行上演	(二)
斷髮女中	同		(四)
海の星	同		(五)
小梅と一重	同		(七)
渦卷	同		(九)

◆女優の誌上慰問文◆ (二)

◆初代富十郎を語らぬ◆ 食満南北 (三)

◆時局劇の方面其他◆ (演劇時評) 中井駿二 (四)

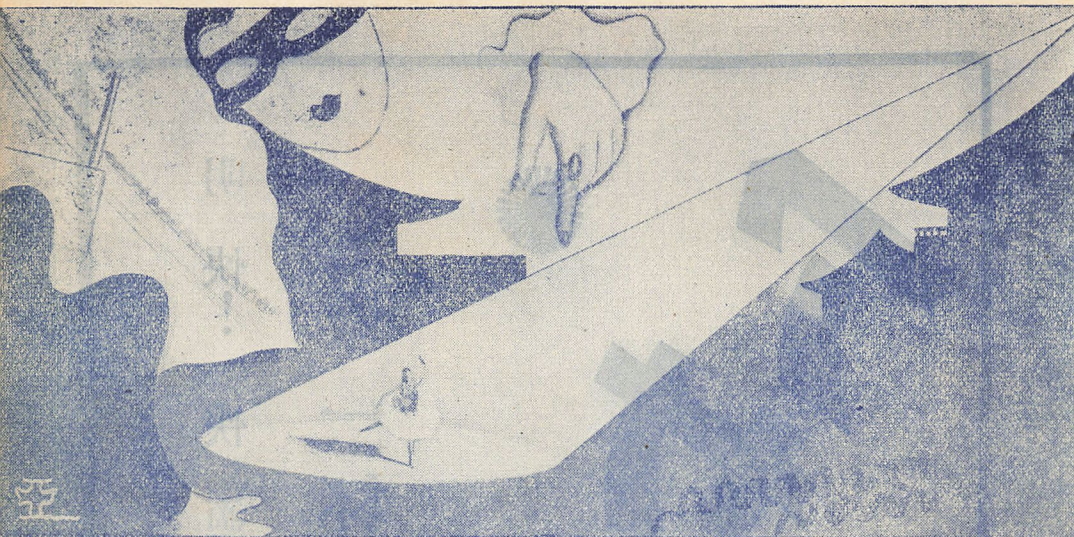
◆新派涙の哲理◆ 永田衡吉 (九)

◆渦卷初演の頃◆ 吉本寛汀 (三)

◆津太夫藝談抄◆ (三)

◆十一月のアルバム◆ (四)





◆ 映畫界 放談 眞價を出した歌舞伎出スター…玉木潤一郎…(三五)

◆ 道頓堀 だより…(三八)

◆ 近世上方 名優傳 中村宗十郎(六)…(三九)

◆ 映畫 松竹大船作品 彌次喜多大陸道中…(四六)  
 松竹大船作品 暖流 前後篇…(四七)

……………編輯後記……………(四八)

◆ 繪 歌舞伎座東京大新派團、小梅と一重の舞臺面◆ 濤の星、赤塚彌三郎(井上正夫)ヤ  
 ス(水谷八重子)◆ 斷髮女中(水谷八重子)◆ 銀之助(伊井友三郎)◆ 一中節師匠(宇  
 治一重)◆ 喜多村綠郎)蝶次(英大郎)假名屋小梅(河合武雄)◆ 中座の家庭劇、鏡後の  
 家、柿沼(森)ベフニラ館(小織)久枝(石河)村上(高田)久枝の父(元安)久枝(石河)  
 アフニラ館(小織)◆ 報恩餅 銀力屋西岡(十吾) 失業者片岡(天外)片岡の女房  
 (宮村)お常(浪花)◆ 角座、新舊合同劇、小栗の長兵衛、堀尾茂助吉春(都築)、囃  
 長兵衛(小太夫)◆ 菊の葉、藝妓戀踏(梅野井)夢千代(若葉)女將お蓮(若宮)あき  
 らめの涙、お宮(瀧)貫一(小太夫)◆ 射的場女主人(石河)からくりや鐵太郎(十吾)  
 弟(天外)◆ 小栗栖の長兵衛舞臺面、腹の長兵衛(小太夫)◆ 文樂座人形淨瑠璃、紅  
 葉狩の舞臺面

■ カット……………浦正樹……………  
 ■ 表紙……………長谷川小信……………



明快！快適！

この一杯！！



# アサヒビール

一等國の一等品

宮内省御用達

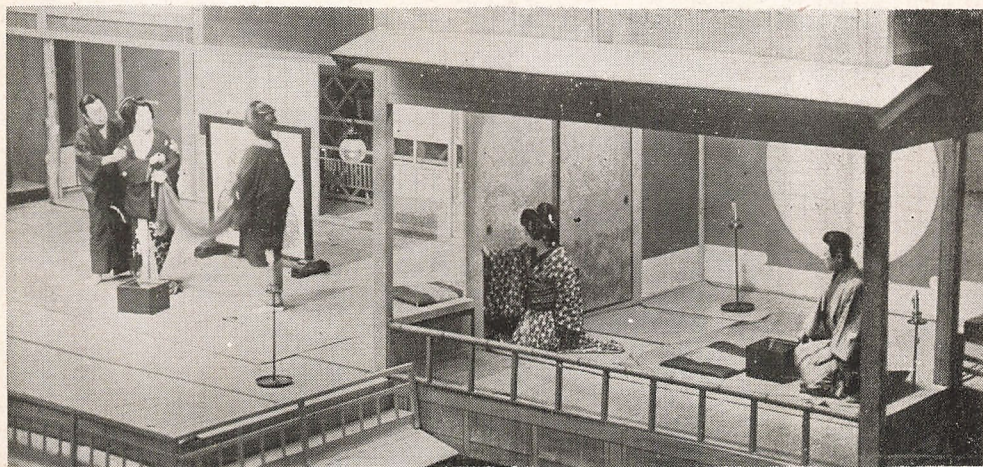
大日本麥酒株式會社





# 座伎舞歌の月一十

劇派新大京東



面臺舞の重一と梅小



☆ ☆ ☆ (子重八谷水) ス ヤ (夫正上井) 郎三彌塚赤 ☆星 の 海☆



銀之助 (伊井友三郎)



断髮中女 (水谷八重子)

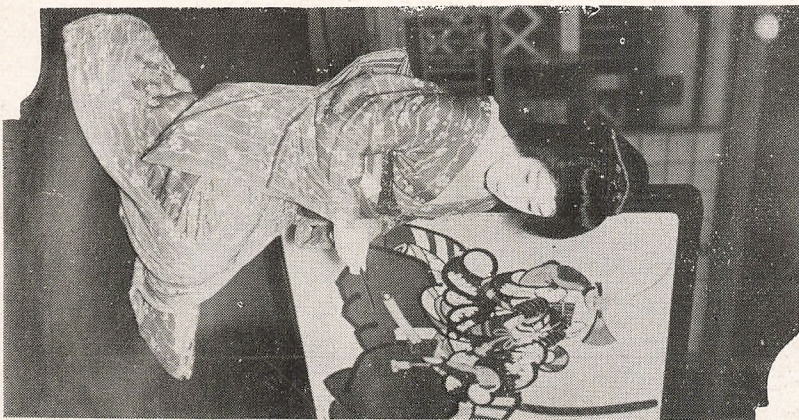


一重 (喜多村綠) 字匠師節中

十一月の歌舞伎座



座伎舞歌



蝶 次(英太郎)



假名屋小梅(河合武雄)





十一月中座の家庭劇

↑ 家の後銃

(森) 沼 柿  
 (織小) 屋 館 ラニフベ  
 (河石) 枝 久  
 (田高) 上 村

← (安元) 父 の 枝 久  
 (河石) 枝 久  
 (織小) 屋 館 ラニフベ

餅 恩 報

(吾十) 岡西 屋力 鉄  
 (外天) 岡片 者業 失  
 (村宮) 房 女 岡 片  
 (花浪) 常 常 女 岡 片





# 座角の月一十

## 劇同合舊新

衛兵長の栗小→

(築都) 春吉助茂尾堀  
(夫太小) 衛兵長 螭

菜の菊

(井野梅) 路戀妓藝  
(葉若) 代千夢  
(宮若) 蓮お將女 ↓



### 又夜色金



### 涙のめらきあ (座中)



(夫太小) 一貫 (瀧) 宮お

←(河石) 人主女場の射  
(吾十) 郎太鐵やりくらか  
(外天) 弟



文樂座人形淨瑠璃

紅葉狩の舞臺面



座 角



(夫太小)衛兵長の娘



面臺舞衛兵長の柄栗小



# 大阪代表の團體旅館

大阪市道頓堀日本橋北詰

さぬきや旅館

電話南二九五〇番

大阪市道頓堀日本橋北詰

大和屋本店

電話南  
六〇八四番  
一六八七番

大阪市道頓堀日本橋北詰西入

大黒屋總本店

電話南四八一九番

大阪市道頓堀日本橋北詰

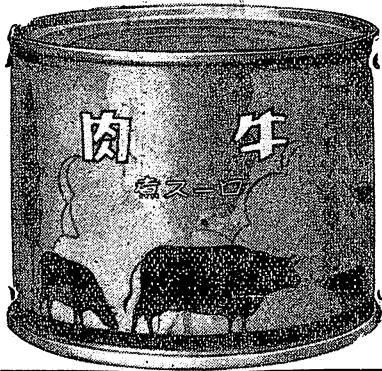
三國旅館本店

電話南  
三八八二番  
二六六三番



# 金鶏印罐詰 二大製品

- 1、純良精選の牛肉  
で御座います
- 1、不意の御來客に
- 1、御酒ビールの御友に
- 1、キャンピングに
- 1、ハイキングに
- 1、各地百貨店  
著名食料品店  
に販賣致して居ります
- 1、キンケイ印を御指定下さい



洋酒・食料品・罐詰問屋  
 大阪市東區豊後町三番地  
 會社式 横山商店



新開店

美酒  
美味

鳥巣菜

一階スタンド式

二階御座敷水だき

南地戎橋電停南ノ辻西入

電戎四〇二九(元三島亭跡)



大阪市東區京橋三丁目七五

株式會社

大 林 組

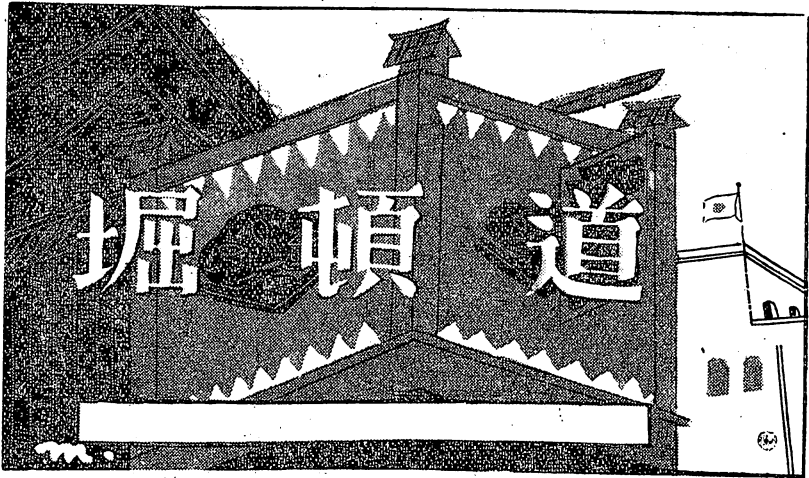
支 店 東京、橫濱、名古屋、福岡、大連

營業所 京都、神戸、金澤、靜岡、廣島

仙臺、京城、臺北、新京、奉天

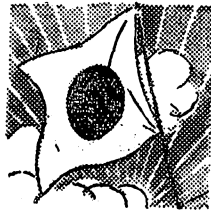
工作所 大阪、東京





誌 雜 合 綜 畫 映 藝 演

號 輯 特 文 問 慰 上 誌 の 優 女



號 六 十 五 百 第



# 十二月の歌舞伎座

誌上  
舞台

第一

## 温泉紅葉

二場

重なる配役  
老婢おにわ……………村田式部  
舊本陣の娘お君……………英太郎  
叔父儀兵衛……………山口俊雄  
温泉堀鑿の牧師高島……………伊井友三郎  
勇二の兄青太郎……………小堀誠  
青太郎の假妻おとよ……………村田嘉久子

一、上州の贗泉宿  
舊本陣の裏手  
二、舊本陣の内部

封建時代には本陣として、物凄い權威を誇つてゐたお君の家も、時代の浮世と共に亡き父の田舎には惜しいほどのさへた腕とが却つて祟つて、現在は昔の面影もない憐れな有様であつた。

君の亡父は、此の土地に新温泉も堀り出さうと、その事業に手を出したのか、そも／＼一家を没落する運命となつた、そうして堀つても堀つても肝心な湯は湧かず、ただ／＼ふへて行くのは莫大な借金ばかりであつた、遂に悲惨の中に父親

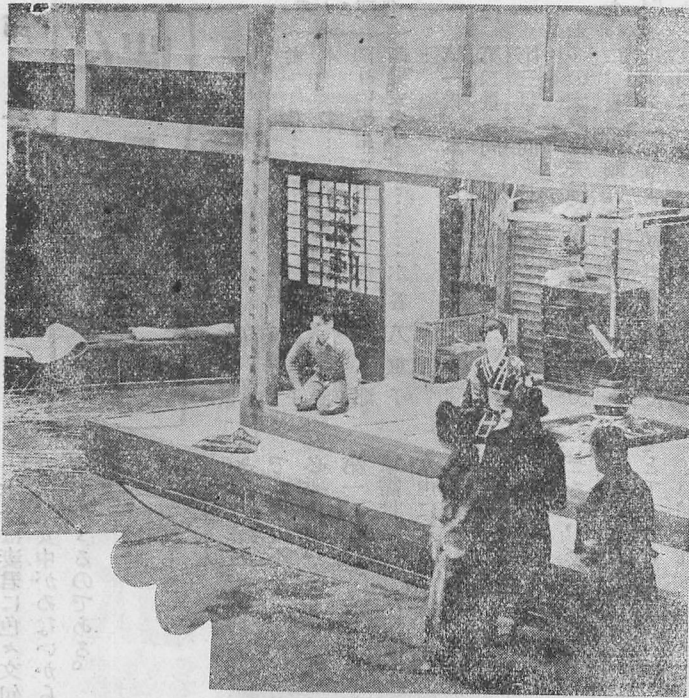
はあの世へ旅立つた、後にとり残されたお君、弟の勇二と手を握り合つて、健氣にも父遺志を受け繼いで、現在も尙堀り續けてゐた、しかし肝心な湯は一向に湧き出す、そこへ家は借金の變りに、今日明日にも高利貸の手に奪はれると云ふ運命であつた。

人間、一度落目になつては、親戚とても相手にしてくれず、お君の叔父の儀兵衛と云ふのも、矢張りこうした男であつた、だがこゝに唯一人姉弟に同情して味方となつて、ベストをつくしてくれる男があつた、その男は新温泉堀り出しの若手技師で、高島と云ふ男で、姉弟の高島



に對する感謝の涙……、やがては戀を覺  
へるやうになつた。

突然お君の前に意外な人物が登場した



それは今から七年前やくぎのため無斷家  
出した兄の育太郎であつた、彼は表面改  
心したの如く見せかけ、本當の目的は何

(寫眞はその舞臺面)

か未だ我家  
に財産らし  
物が残つて  
ゐないかと  
云ふ慾心か  
ら

然し現在  
となつては  
財産などは  
あるものか  
その日の生  
活にも困つ  
てゐる有様  
である、育  
太郎は全く  
失望したが  
無頼の彼は  
お君があく  
まで父の遺

志を貫徹しようとしてゐる涙ぐましい決  
心を、惡のために利用しやうと惡計畫し  
た、そして、暗にお君の身賣りを強要し  
たのであつた、これで兄の心を讀めた、  
お君は遂に出て行つてくれた涙ながらに  
歎願するものであつた、折柄敷人のお巡り  
さんが、遂に育太郎を連行して行つた。

お君、勇二の姉弟は兄の暗い身の上を  
怨み悲しみ姉弟は相抱いて涙くのであつ  
た、それでも骨肉お君の心は悪い兄でも  
憎みきる事は出来ない、此の優しい眞情  
に眞人間に返つた育太郎は、弟勇二が一  
家の急を救助せんと、禁獵の羚羊を撃つ  
て金に代へた罪を、我が身に引き受ける  
のであつた。

その時、突如地震のやうな大音響が起  
つた、それは、お君が心から待ちに待つ  
た温泉が湧出したのである、この有様を  
見て姉弟と高島は目に嬉しい涙が一杯に  
宿つてゐたのであつた。

かくてお君一家にも明いそうして樂し  
い日が訪れたのであつた。



# 断髪女中

三景

重 妻 君……………村田嘉久子  
 多……………山口俊雄  
 隣の學生……………清水一郎  
 断髪女中……………水谷八重子

第一景 本多さんの文化住宅  
 第二景 同じ家  
 第三景 同じ家

本多の家庭は夫婦ぎりの淋しい家庭であつた、妻君の頭には何時も美しい大丸髷がキチンと行儀よく結つてゐるが、それと反對にだらしのない妻君でもあつた例へば主人が會社から汗ダク／＼となつて帰宅しても洗ひ替へのシャツが何處に行つたか判らないと云ふ始末……

本多は妻君に色々文句を並べるが、妻君は、女中がゐないからと、返へつてつてかゝるのである。

本多は時局まで持ち出して二人きりの家庭で女中の必要な事や第一こんな軍需景氣に女中になるやうな女はゐないことなどを聞かせるが、妻君の頭にはとても入らない、それどころか女中を求める氣持ちはあ

(面 臺 舞 の そ は 眞 寫)



くまで頑強である。そうするうちに妻待望の女中をヤツト発見した、それは出入りの洗濯屋が世話



# 海の里

二二幕

重なる配役  
 赤塚彌三郎……………井上正夫  
 洋服屋淺間……………清水一郎  
 ヤス……………水谷八重子  
 漁場監督……………山口俊雄  
 女將あや……………村田満智子  
 濱田才次郎……………山田巳之助

當時大正十年の初夏のこと、……ロシヤでは、バルチザンがオコツクを斃打ちしたり、不當極まる漁場の競賣を行ふなど全く暴戾の限りをつくしてゐた、わが日本もこれに對しては北洋漁場の權益確保のために、憤然自由出漁を斷行す可しと、彼我の間には緊迫した空氣が漲つてゐた——

北日本のある波止場に「臥牛丸」と云

したからである、これがまた大した代物で斷髪で、名はアケミと云ふ女給のやうな名前……

アケミは人の倍以上よく働くが、大變な物識りで、高論卓越を滔々と説くのである、流石の本多夫婦はスツカリ、この女中に押れ氣味である、然しこの女中のために返つて家の中は見違へるほど、整然となると共に明るい家庭となつた、日常の生活も、彼女の主張で規則正しくなるばかりであつた。

まづ朝は彼女リーダーの下にラヂオ體操が行はれる、本多夫婦も、各自受け持ちを決めて庭掃除をもやらせられる、これではどちらが主人か判らない、現在の一家をリーダーして行くのは全くアケミであつた。

アケミがこゝへ來た、當座彼女を極力排撃した男、大熊と云ふ書生で、本多の隣りに住んでゐる國粹論者で、朝から浪花節のレコードをかけたたり、唄つたりしてゐる男である、彼はアケミの斷髪が第

一にいやでそれに彼女の博學なことも小癢にさばつてゐた。

が……今ではモウすつかり彼女には手も足も出なくなつてゐる有様であつた、そうして彼もアケミの下にラヂオ體操をやつてゐる。

ここにもう一人の男、これは心酔してゐると云ふてもい、位、アケミに感心してゐる老人がある、本多の家に滞在してゐる田舎の伯父さん、この伯父さんアケミから毎日高説を承つては、スツカリ魅せられたやうになつてゐる、田舎に歸つてから近所の娘達に盛んに、アケミから聞いた名論の受け賣りをやつてゐる。

ところがこの反響は實に偉大なもので俄然女中志願者が續出すると云ふ有様、そうしてこの連中が揃つて斷髪となつてアケミのコーチを受けるべく、本多一家を訪問したのであつた。

彼女はアケミの持論である、現代に於ける女性の職業としては、女中が一番理想的職業であると云ふことに、動かされるのであつた。



ふ浚漕船が横付けなつてゐるが、船室には炊事道具などが、ゴタ／＼と置かれてあつた。

船長は赤

塚彌三郎と

云ふ相當年

輩の男で、

日露戦争當

時はカムチ

ヤツカ邊り

まで密漁に

出かけて、

露人を相手

に危い橋を

渡つたこと

もある中々

の猛者であ

るが、現在

ではドツク

會社の職工

してゐるを

篤一の夕

(眞窟の舞臺面)



ツタ二人暮しの淋しい家庭である。

ある夜のこと、この彌三郎が船で好きな酒を飲んでゐた時、どこの者とも知ら

ない男が、波止場の近くにある「喜樂亭」と云ふ小料理屋の、ヤスと云ふ女に渡してくれと、一通の手紙を黙つてほり込んで行つた。

彌三郎は呆氣にとられてゐたが、丁度歸つて来た倅の篤一にこのことを話すと篤一はその手紙をヤスと云ふ女に渡してやつた、間もなくヤスが狂人のやうになつて来たが、それも無理もないことであつた、その手紙の差出人はヤスの父親で、而もそれは遺書であつた。

ヤスの父親は、事業の失敗から愛しい娘を小料理屋へ奉公に出してゐたのであつた、然し娘にさうした苦勞をかけることが、とても苦痛あでつた、遂に死の決心を定め最後に娘の顔を見たさに、その手紙を出したのである。

ヤスは半狂亂の体で海邊で、父の名を呼びながら探し廻つてゐたのも憐れである、時機は既に一足遅かつた、父は冷たい身体となつてゐた。

ヤスの父親が投身するのを見てゐなが



ら、救ひもせず見殺しにした男があつたそれは彌三郎の悴篤一である、彼は生れて始めて背廣服を着てゐたが、その洋服が大切のため人間一人をムザ／＼と見殺しにして丁つた、だが流石に心がとがめ父親に打明けた、父は激怒し篤一を殴打した上、ヤスの父親の死體を引取つてお通夜をしてやつた、ヤスの奉公してゐる小料理屋は無情にも父親の死體を引き取らうとはしなかつた、ヤスは泣いて彌三郎に感謝するのであつた。

ところが篤一はそれ以來會社も休み勝ちで、頻りに何か考へてゐるばかり

一方話は變つて、先日来漁場監督の平岡は、自由出漁政行について、この際は是非とも彌三郎にも一肌ぬいでくれと頼み込んだが、彌三郎はどうしてもウンと云はない、すると篤一が父に代つて自分を使つてくれと、父親に内密で申込んだ。篤一は漁業會社から旅費として金參百圓を借りて、ヤスを自由の體にしてやりかたつた。

父親も始めて篤一の眞情を知つて目に涙が一雫く……そうして彌三郎も出漁に参加することに決心した、それは若い同志のヤスと篤一との仲を圓滿に結びたかつた一念からであつた、それは温い親心なればこそ（カット海の里とあるは海之星につき訂正せよ）

第四

# 小梅と一重

二幕

銀之助の男衆兼吉……小堀 誠  
 榎下藝妓蝶次……英 太郎  
 一中節師匠宇治一重……喜多村 綠郎  
 うた島の若い者清吉……河合 明石  
 うた島の女將おかれ……村田 武部  
 津の國屋銀之助……伊井友三 郎  
 假名屋小梅……河合 武雄  
 小梅の兄七太郎……山田 巳之助

新富座の芝居茶屋うた島の二階で今賣

出しの津の國屋澤村銀之助の男衆兼吉が新富町の藝妓蝶次を送り出してゐるとそれは棧敷で蝶次の姿を發見した小梅がヤキモチと悪酒から火の出るやうに憤つてゐる理由から……小梅と銀之助の仲はよく人は知つてゐる、近頃の銀之助は自身をヒイキにしてくれる小梅の仕方が、餘りに芝居氣ツツブリなのをイヤ氣が差してゐる時、フト機會から馴染んだ若くて美人の蝶次に心を引かれるやうになつてゐる、さう云ふ戀の三角關係にある蝶次を口汚く兼吉が罵るのは、兼吉が小梅に金で手なづけされてゐるからだ、兼吉の去つた後、蝶次は一人悲しさや口惜さで泣伏すが、思ひ直して鏡台に向ひ、顔を直そうとして、抽斗の中の剃刀に眼が移り、思はず、それに見入つたか、一中節の師匠宇治一重が姿を見せたので、蝶次は發見されないやうに剃刀を隠してしまふ、然しそれを早くも目敏く見てとつた一重は、他所疑へて親切に意見を加へるのであつた、そこへ女將がくるので、一

重は蝶次の身を心配して女將に預けて行かうとすると、蝶次は既に何事か決心したものでらしく、津の國屋の太夫に今一度會せてくれと泣くばかりに歎願し、自分のやうな主人持のしがない者が、當時新橋で嬌名の高い假名屋小梅とは、男を張り合ふ柄でもない、今日始めて身のほどを知つた、そうして銀之助とサツパリと別れると云ふ、それを部屋の外で全部を聞いてゐた銀之助は俺は蝶次と死んでも別れるのは厭だと云ひ出し、そうした一重に泌々と語つた——自分は役者としての家柄もなく、ほんの自力でこれまでになつた、なるほど小梅と云ふ女が自分の身の上に同情してくれ随分力にもなつてくれた、その恩は決して忘れてゐない、今日では小梅の仲が知れて人氣も急に煩くなつて来た、そこへ兼吉が怖しく小梅が酒に酔つてやつて来たことを知らず、一重はとにかく銀之助と蝶次を座敷に隠くす、間もなく小梅が姿を見せ、銀之助に會せと一重に喰つてかゝり、さては一

重が先きほど蝶次から取りあげた剃刀を手にするなり、銀之助を探しめようとすゝる一重はその手をシツカリ押へ、相手を殺して自分も死ぬんだ……と叫ぶ小梅にお前さんは本當に銀之助を眞にすゝるなら、何故立派な役者にしてあげない、幕や幟や連中で、お前さんは千兩役者をつくる氣だらうが、それじやとても出来ない、……としんみりと意見を加へる、その一言にいまわ小梅の心にも強く胸を打つたのである。

その後小梅は銀行頭取山村の世話で、「待合酔月」を出したが、間もなく家出して濱本清と同棲するやうになつた。

濱本は宇治一重の家に同居してゐた頃事業の金方に山村への紹介を小梅に頼んだり、兼吉から小梅が借りた金を返してやつたりしたが、實はその頃から小梅に戀して居たので、小梅の方でもまた、濱本の純に惹かれてゐたのであつた。

一重に頼まれた藏本の妻お秋の口利きで、小梅は酔月へ戻つたものゝ、父の

千助に叱言を云はれたり、兼吉に悪態をつかれたりすると、勝氣な小梅は業腹で斷つてゐた酒を呷りながら、戀には初心な濱本が、自分の命を縮めても、捨てられまいと慕つてくれる心の可憐さ、それに出来かこつた事業の夏は全く切れるし、自分としては、心底から何うと云ふではないが、今更に濱本を捨てることはとても出来ない……と小梅は堅い決心してゐた、ところが銀之助と蝶次が待合樽屋で嬉遊してゐるとの兼吉の知らせに、小梅は血相を變へて乗り込むと、銀之助は端然として藝の工夫に没頭してゐたので、呆氣なくそのまゝ立ち去るのであつた。

此方は戀に一途な濱本清、宿に小梅の姿が見へなかつたところから早合點し、自身を捨て、逃げたものと思ひ、出刃の庖丁を持つて、酔月へやつて来た、兼吉その庖丁を奪ひ、持兇器の罪に問はうと格闘となる、その隙に小梅は證據になる庖丁を横合から奪つて外へ出るのであ



つた。

雨上りの夜を濱町河岸まで来た小梅は辻待の車夫に兼吉を呼出して貰ひ、前途ある濱本を助けてくれと頼むが、兼吉はあくまで警察署へ突出すと云つて頑張るので、剩さへ小梅を毆打する、小梅は遂に持つてゐた庖丁で兼吉に斬りつけるのだつた。

その後小梅と濱本は何うなつたかと云ふのに、濱本は前途有爲の青年と山村から見込まれてアメリカへ洋行することに、小梅はまた、喪心した様で酔月へ歸つて来たが、兼吉が病院へ昇ぎ込まれたが間もなく絶命したと聞くと、父千助や兄七太郎が罪から救はうとするのを、キツパリ斥けて、銀之助への傳言を蝶次頼むと、潔く自首して出たのであつた

第五

# 渦巻

四幕

東大路眞造……………井上正夫	東大路數江……………水谷八重子	女中お辰……………村田嘉久子	乳母お兼……………河合武雄	支配人金杉哲夫……………小堀誠	執事橋本清三……………山田己之助	姜政子……………市川紅梅
----------------	-----------------	----------------	---------------	-----------------	------------------	--------------

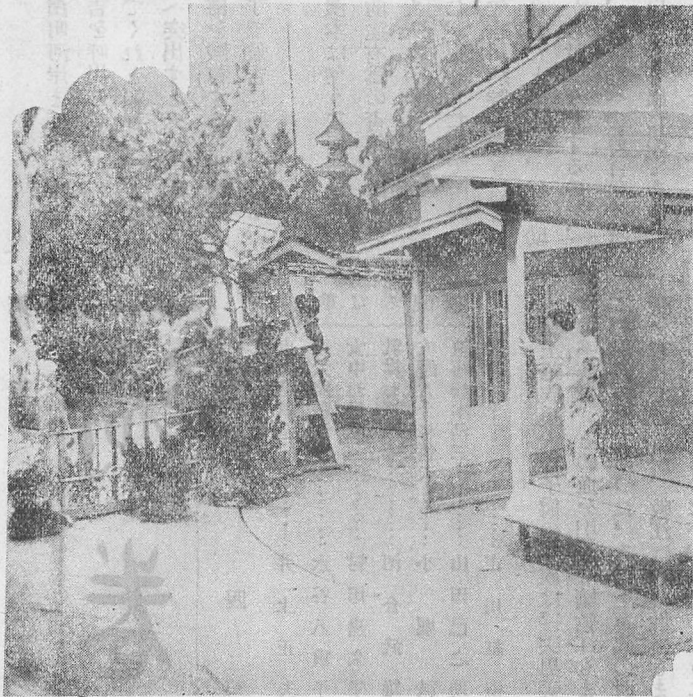
堂上華族東大寺子爵の一族は、美男美女の系統で、その血を引く令嬢數江もまた美貌の持主であつた、その上巨萬の財産を有してゐるが、數江はその性格もまた優しい女性であつたが、彼女の餘りにも柔順過ぎる性格が缺點となつて悲劇の運命に泣かねばならなかつた、彼女の不幸の第一歩は、現在の夫高昌との結婚に

始まり、數江は、處女心に彼女には從兄に當る眞造と云ふ青年とひそかに戀を描いてゐたが、その淡い戀も父の命令で己むなく高昌を養子に迎へたのであつた。あくまで柔順な數江は、父から定められた夫高昌に誠心から仕へて、その間に喜美子と云ふ可愛らしい一子を設けたが、數江の貞淑なるに引きかへ高昌は、更に彼女を虐待すると共に、政子と云ふ女を二號に圍つて、殆んど家庭を顧みなかつた、然し數江は決して高昌を怨むやうな事はせず、夫の心がそうして自身から離れて行くのも、結局は自分が至らないと却つて我が身を責めて眞實を捧げて行くのであつた、反對に夫の放蕩はますます募るばかりである、漸く數十日目に家に歸つて来た夫は、タマ／＼眞造が來合せてゐたのを見て數江と眞造との仲を疑ひとう／＼家附の娘數江を眞葛原の別荘へ追ひやつて終まつた、身の覺もない濡衣を着せられて別居を強要された數江は、それでも夫を恕まず時機の來る日を待ち

焦れてゐた。たゞ愛兒喜美子との仲を裂かれる事であつた。無情な夫は頑として喜美子を妻に渡さなかつた、數江は無心

(寫眞の舞臺面)

に乳房を求めて泣く喜美子を、新たに雇ひ入れた、お兼と云ふ女中にくれぐれも頼んで、たゞ一人淋しく別荘で暮してゐた心は可愛い喜美子の事ばかり……一方、數江を追ひやつた後の東大寺家は、政子が令夫



人となつておさまり、その上に政子の兄の金杉哲夫と云ふ人物が入り込み、家庭の一切を支配してゐた、そして政子、哲

夫の兄妹は心を合せて東大寺家横領の悪計を巡せてゐた、邪魔になる喜美子を里子にやろうとし、百萬長者の一粒胤喜美子は、危く他人の手に任せられやうとしたが、この時いぢらしい喜美子を守護すべく敢然として立つたのは乳母のお兼であつた。

東大寺家にお兼の姿が見られなくなつたのと、別荘にゐた數江も見へなくなつてから、早くも六年の歲月が流れた――

大阪高津町のさゝやかな家に怪しい生活をしてゐるのは乳母のお兼と喜美子であつた、お兼は可愛い一心から、けふまで、凡ゆる苦勞をなめながらも、まるで我娘のやうに育て、來たのである、生れながらにして母の顔も、父の顔も覺へぬ喜美子は、またお兼を生みの親以上に親みなじんでゐた、お兼が風邪に冒かされて床についた時などは、まだ六歳の喜美子がお兼のために醫者へ薬を取りに行くと言ふいちらしさであつた、斯うした優しい有様を見て、お兼は人知れず嬉しい



涙にむせぶのであつた、それについて思ひ出すのは未だに行方不明の敷江の事であつた。

その後お兼は、一心不乱になつて敷江の行方を求め續けてゐるが、未だ何んの手戀りもなく悲觀に暮れる外はなかつた。話は變つて生魂神社の裏門の近くに、小綺麗な構へをした生花の師匠があつた。家の主は、年は三十前後で、どこことなく淋しい思ひがするが、とても素敵な美人があつた。

それは愛兒喜美子の行方を探ねてゐる東大寺敷江の現在の姿であつた、生魂神社と高津町それはホシの眼と鼻の先の處である。

一方は喜美子のために、どうでも敷江の行方を知らせようとしてゐるお兼、また一方、片時も忘れ得ぬ愛兒喜美子を求めてゐる敷江――

この兩人が、運命の悪戯とは云へ、互に近く住まひながら、未だに相會ふ機会もなく過ぎ去つて行く、運命は渦巻のや

うに、相會する機會を中心に廻り續ける。兩者は何時の時に、手を取り合ふことが出来るか、それは只、神様のみ識る所。お兼は敷江の行方を探し出すために、愛する夫とも別れ／＼の生活を續けてゐる女であつた、それもただ、喜美子のいぢらしき、愛子の念からに他ならない。喜美子と敷江の廻り合ふ時こそは、ただ母娘再會の喜びであるばかりでなく、お兼としては再度愛する夫と温き家庭をつくる事も念願の一つでもあつた。

繁華街に近く、交通至便  
閑雅な和洋室！  
◎モダン階上浴室新設◎

# 南地ホテル

一宿 一  
二圓 半  
三圓 額 半  
南地戎橋電停前  
電話南四一四・四四一

# ビステキ専門店

# 湊町三階

## 宴會場新設

湊町北詰 阪急ビル  
電樓川四七九三番

# 天婦羅と 佛蘭西料理

# 喜久屋食堂

道頓堀 南乃 173  
式橋北詰 748番

# 女の徳の誌

## 慰問文

### 上

## 力強き皇軍の前進

歌舞伎座 水谷八重子

皆さまお元気で何よりでございます。私は皆さまのお元氣なお姿に接して本當に嬉しうございました。と、申しますのは、今日、私、映畫の「土と兵隊」を見ましたのです。映畫を通じて皆さまとお目にかつたわけでございます。この映畫をみてゐる間、私は涙が出て涙が出て仕方がございませんでした。映畫をみてこんなにも泣ける自分を見るのは久しぶりのことでございます。が、この涙はいつも芝居や映畫をみて、さうでなくてさへ泣虫の私のながす涙とは違ふ性質のものであることを感じました。そこで 涙は一體何んだらうと考へこみました。それは言葉や文字では言ひ現はせない、より高い深いものから來てゐることを發見しました。映畫の終り近くになつて、皆様が尙も力強き前進を續けてゆくお元氣な姿をお見送りした私は、たゞもう皆様の御健康を祈る心で一杯でした。と同時に皆様と一諸に元氣に前進してゆく自分自身をもはつきりと感じましたのです。私も舞臺で頑張ります。皆様もどうぞお力一杯お心置きなく御奮闘を願ひます。今日は何といふ素晴らしい日でございます。清く美しい涙でしつかりと結びついた皆様と私、今後ともに元氣一杯で前進を續けて参りませう。

X

X



## 銃後の事は御心配なく

歌舞伎座 竹内京子

舞臺の疲れにぐつすり寝込んで居りました真夜中、突如ボ  
ーポーと鳴り渡る非常警報に目をさました。それはこの  
十月に一週間行われました軍隊民間協力の全國的防空演習の夜  
です。最早初冬に入つた夜氣は身にしみました。しかし北支の  
寒風の中に残つて居て下さる皆様の事を考へ乍ら苦ひなく起き  
上れました。手早くグツケをはき家庭防火擔任者のたすきかけ  
て門口に立つと、外は眞の暗みです。その中を警備團の方や傳  
令が走つて居られます。處々に落ちる焼夷弾には私達女軍がか  
けつけて消火に務めます。解除まで二時間、三時間いきづまる  
様な猛演習が続けられます。その物凄さは實戦もかくやと思わ  
れるほどでした。皆様、今銃後は舉國一致、物資節約に涙ぐま  
しい努力をうけて居ります。どうぞ銃後の事は御心配なく御  
國の爲に戦つて下さい。そして武勳赫々と御凱遊す日を心か  
らお待ち申し上げて居ります。

## 寒さに身體をお注意

歌舞伎座 鈴木光枝

戦地の皆様、日章旗の行くところ強い勇士の方々が御活躍下

さいますので安心してお芝居の勉強を続ける事が出来ますのを  
有難く厚く御禮申し上げます。私達の劇團からも事變がおこり  
ますと同時に三人、去年の夏一人、應召されて居りますが、幸  
に皆無事で何時も元氣なお便りを戴きます、何りお役に立つ事  
も出来ません私共も、白衣の勇士の方々が御見物下さいます折  
や、出征家族御招待の機會には、せめてもの御奉公と通常の感  
謝を込めて精一杯お芝居させてゐたゞいて居ります、何時の日  
か現地慰問公演にも伺へたらと、支那へ行つて来たお友達から  
兵隊さん方の御様子を伺ひます度に、希望の實現される日の一  
日も早かれと願つて居ります、厳しいお寒さに向ひます折から  
くれぐれも御自愛遊されます様遙けく地より皆様の御無事を祈  
り上げます。

## 樂に暮せるも皇軍のお蔭

歌舞伎座 水谷桂子

前線の勇士の皆様。  
御苦勞様でございます。日本はいま秋晴れのいゝお天氣でござ  
います。北滿には雪つもり、北の海には寒風が吹きまくつ  
てゐることゝ存じます。ほんとに何かと御不自由のこととせう  
。お察し申し上げます。

皆様があつかりと戦つてゐる下さるお蔭で、私たちは何不自

由なく、かうしていつもと同じやうに芝居をさせて頂いて居ります。凱旋なさる勇士のお話では、そちらで皆様が内地ではさぞ御不自由してゐるだらうと御心配なさつて下さつてゐると伺ひまして、ほんとに涙のこぼれる程ありがたく存じましたが、決して私たちは何にも少しも不自由して居りません。日本は皆様が御出征なさる前と何一つ變つて居りませんから、どうぞ御安心なすつて下さいまし。

それもこれも、皆様が御國のために戦つてゐて下さるお蔭でございませう。

勇士の皆様。又は、不運にもお傷を受けた方々。

皆様の御苦勞に何と云つて御禮を申し上げていゝか、御慰問申し上げていゝか言葉もございませぬ。ありがとうございませぬ私のやうなものゝ寫眞でもお入用ならいつでもサインしてお送り致します

どうぞ、いつも御元氣で。

× ×

## 一日も早く凱旋を待つ

舞歌伎座 放島 鈴子

内地にはそろ／＼冬風が吹いて参りました。戦地にもさぞかしもつと寒い風が吹き雪も降つて來てゐる事と存じます。銃後には先日二十四日から一週間東北、關東、關西、四國を通して燈

火管制防空大演習が御座いました。私共芝居報國致します者も勿論の車官民一つとなつて戦地の皆様の御安心して頂ける様、未だ見ぬ實戦もこの様かと思はれる程一生懸命にやりました。歐洲には戦亂が起り國民は其の日の食物にも困つてゐるのに我が國は皆様のおかげで本當に安心して暮して行ける事を感謝して居ります、誠につたない文章を書いて言葉に現せない感謝をお送り申します。銃後は決して御心配なく思ふ存分御活躍の上立派な御凱旋をお待ち申上げて居ります。

× ×

## 東洋の平和を一日も早く

舞歌伎座 川 静子

もみぢの紅素するいゝ時候になりました。もうすぐ寒い冬が訪れて参ります。

北支、南支、中支に苦戰苦闘なさる皆様に三年の年月が流れて亦新しい年も間近くなりました皆様どんなに御苦勞遊すといられる事とせう。戦死遊ばされた英靈に、戦傷遊ばされた方に亦現在血に汗に泥にまみれ戦つて下さいます皆様が本當に感謝の言葉もございませぬ、新聞、ラヂオ、ニュースにと皆様のことをお聞きお姿を相見して、ほんとうに泣いて居ります。一日も早く東洋の平和になります日を心から祈らずにはゐら



れません。

何卒お體お大事にめでたく御凱旋遊ばして下さいませ。

× ×

## 病氣も戦場の勇士を偲べば

歌舞伎座 相馬 幸子

秋も漸く深み、朝夕めつきり冷めたさの身に沁む頃となりました。戦線將士の皆様には如何お過しで御座いますか。

聖戰四年！そして三度目の嚴冬とお戦ひになる勇士の方々  
に只々心から感謝申し上げます。新聞雜誌、ニュース映畫等を通じて遙かに戦野の御苦勞をしのび、せめて思ひをペンに托してお慰め申上げる事が出来れば幸に存じます。私共も銃後國民としての務めを完うすべく、特に女性に與へられた分野を固く守つて居ります。

矢張り「白き手」を必要とする役目も多く残されて居る様  
に思ひます。御承知でも御座いませうが、去る十月二十四日  
から一週間、全國的に防空訓練が行はれました。而かも私共演劇  
人は悠々其の中で仕事を續けて行くのです。一步外へ出れば眞  
の暗、月光の有難さを再認識した位です。女は家庭防護團として  
モンペ姿に向ふ鉢巻、いでたちもかひなくしく落された爆彈の  
消火、毒ガスの防火、種々の警報を聞き分けるのに緊張其のも

のです。斯ふした中で着々と稽古は續けられ、二十九日の夜行  
で大阪へ！暗の中をひた走りに走るのも何か異様な氣が致し  
ます。明けて三十日の朝、陽はきら／＼と輝き、訓練の成果を  
讃える如く！沿線には黄金色の實が枝もたわ／＼になつてゐま  
す。今年柿の成り手か！稲は重い頭を垂れて風にゆさぶら  
れては幾千疊の黄塵に小波を立てゝゐます。其のあぜ道を日支  
軍の白兵戰、多分ジャンケンに負けた子供達でせう、蔣介石の  
一軍は：思ひなしかチンピラ日本兵は朝日を受けて勝誇つた  
面を輝かせてゐます。登校前のひとときの遊びも斯うまで變る  
ものでせうか、長期抗戰何のその、矢でも鐵砲でも持つて來  
い！！三十、三十一日夜更まで舞臺けいこ一日初日相當な強  
行軍です。而し私共は「常に演劇人は舞臺を戰場と心得よ」と  
教へられてゐるので案外へいぢやらず。一昨日も病を押して  
出演してゐる友の一人が舞臺裏で倒れましたが「何のこれしき戰  
場の勇士を思へば……」とばかり翌日から元氣で出馬する有様  
！大阪の方には懐しい千日前歌舞伎座の築屋風景です、斯う  
した戦時下にあつて尙、平時と變らぬ安穩さで公演を續ける事  
の出來ますのはひとへに勇士の方々のお力と、日本國民として  
の力強い幸福さをしみ／＼と感じさせられます。

深み行く秋と遙かな戦線の皆様を思ひ只々御健康を祈つて止  
みません。

×

×

## 零下四十度の酷寒も

歌舞伎座 村田満智子

石も土も皆燃ゆるといふ眞夏の暑さも、零下四十度の酷寒も忠義の二字に鍛へし皆様の御身には何んのおさわりもなく、御元氣にて戦地で御活躍遊ばされてゐられること、存じます。

暴戻支那膺懲の聖戦に御参加遊ばされました皆様の上に早や三年の年月が過ぎました、つい昨日のやふにさへ思はれますのに亦々新しい年を迎へる日も近づきお庭の白梅のほころぶ頃ももうすぐでございます。

皆様の御雄姿を新聞やニュースで拜することに聖戦の御様子はるかにしのびまして胸蕩く思ひでございます。

私の弟も北滿にて元氣に御奉公して居ります——皆様、御武運めでたく御凱旋遊ばされます日を心からお祈りいたして居ります。

何卒くれぐれも御體を大事に遊ばして下さいませ。

## 白衣の勇士を見て頭が

歌舞伎座 村田嘉久子

日夜我々が兎も角も無事に其日を過して居られる事が全く前

戦で命をまことに働いて居て下さる皇軍將士の方々の御蔭だと言ふ事は今更申すまでもない事ですが感謝の念に堪へません、然し、皆様の御苦しみやお働きは只感謝するとかお察しするとか、そんな生優しい事ではないと知りながら、それで居てハツキリ戦地を知らぬ私など、只々想像するばかりで申譯のない事でしたが、本當の事を申すすと自分の肉身が事變後すぐ出征しましてそして名譽の負傷をしてそれが又非常に重傷を將來無事に立てるかどうかと言ふ場合になつて、内地へ送還後久々で弟を見舞つた時初めて本當に初めて前戦の皆様の御苦勞その他をハリハリ知る事が出来ました、そして心からの感謝と、内地でこうして過して居られる自分の勿體なきがしみぐ考へさせました、私達はどんな事をして前戦の將士方にお報ひしたらよいのかとさへ悩む位でございます、只々與へられた仕事を忠實に小さい事ではありまても自分で出来るだけ無賃をはぶいて國家の爲めに又將士方の爲めに儘さなくてはならない事を一層深く考へさせられます、そして皇軍の皆々様方に出來ればお一人でも多く御無事に凱戦して歸へられる事を心からお祈り申し上げます。



## 兵隊さんの御勞苦心の感謝

中 座 石 河 薫

兵隊さん！有難う存じます。日々の御苦勞、心から感謝感激いたして居ります。戦線の秋は凜かし、氣候は不順な事と存じます。内地は今、清々しい秋晴れのよい頃です。日本晴れのこのよい日を、送り迎へさせて頂けますのも、皆々様が、聖戦に御奮闘して下さいますおかげと存じ居ります。

時折戦傷の兵隊さんが御観劇下さいました時、面白そうに笑つて下さるお姿を舞臺から見うけますと私は、閉幕と同時に、白衣の勇士のお姿を見てハッと氣が弱くなつた心が急に晴々しくなつて、共に嬉しい氣持ちで少しでも、苦痛をお忘れ下さるやうにと、一生懸命に演じます。それと同時に、この兵隊さん方の第一線に居られたお勇しい姿、艱難困苦に堪えて居れたお姿が、今のそちらの皆々様を思ひ浮べまして、心の底から厚く御禮申し上げます。どうぞ、皆々様、御身御大切に、そして御武運の長久を御祈り申し上げます。

## ニユースを見て涙が出る

中 座 石 渡 瑛 子

日本を遠くはなれた支那の戦場で東洋平和のため又日本帝國

のために正義の銃をとつて、陸に海に空に、命がけで戦つて下さる強い日本の兵隊さんお元氣でいらつしやいますか。内地も大分寒くなつて参りました。でも支那は大陸性氣候で寒暑の差がはな／＼しいとのこと、その中を日夜お休みになるおいとまもなく、御奮闘下さる兵隊さん方の尊く勇ましいご様子を、新聞に、ラヂオに、ニユースに芝居に見、おき／＼する時、私達は感謝の氣持で一ぱいになります。

兵隊さんほんとうにありがとうございます、私達が毎日安心して働くことのできるのも皆兵隊さんの御苦心のおかげです。私は何とお禮申し上げてよいか解かりませんが、私も銃後の一人として及ばずながら盡くさせて戴きます、舞臺を一生けんめい勉強して居ります。どうぞ御無事お手柄をお立て下さいませうお祈り申し上げます。

## 非常時局の國民の義務を

中 座 小 松 孝 子

兵隊さん有難う御座います、と心から申し上げます、どんなにたくさんのお言葉を並べても皆様の御苦勞に相當する御禮の言葉は有りません、只、眞心から申上げる一言を、御受取り下さいませ、皆様の故郷は秋も段々と深くなつて、紅葉も美しく菊も今が盛りで御座います、私達は日本人に、産れた幸せを今更な

から深く感じます、此の上の願には、皆様の御働きに依つて蔭政權の人々の目をさまして頂き、東西に平和の日が来て、皆様と一緒に故郷の風物を樂しむ日の来る事で御座います、其の日が来るまでは私達も皆様にまけない様に大いに緊張して非常時日本國民としての義務を果し度いと存じて居ります。

内地と違つて大陸は氣候も大變不順との事で御座いますが寒さに向ひます故この上共に御自愛下さいませ、皆様の武運長久をお祈して筆を擱きます。

## 病院を訪問して涙が出る

中 座 小 泉 和 子

皇軍勇士の皆様元氣で御座いますか、演劇雜誌道頓堀の編輯部から紙上慰問文を執筆せよとの事で御座いますがどの様に書いて心から御慰問が出来得るかと思へましても好い文面が出来ず困つて居ります、私は昨春父と二人で單獨第一線に一寸御慰問に参りました皆様の御苦勞の程は内地に居る者は到底味はう事が出来ません、私は此頃は松竹家庭劇の舞臺に勤めて居ります能く傷病勇士の方々や御家族が御觀覽に御越し下さいませ先年第一線の野戦病院に慰問に参りました時涙が先に出てかじんの慰問の言葉が言へませなんだと同様に感じました私達が彼様して何不自由なく芝居をして居らるゝのも皆皇軍勇

士の御蔭と心から感激致して毎日舞臺に上つて居ります風土の異なる大陸にての御國の爲めの御活躍第一に御病氣にかゝられぬ様祈り上ます内地は銃後の守りに張り切つて居ります、でわ是にて失禮いたします。

## 新聞記事を見て萬歳

中 座 宮 村 松 江

兵隊さん！ 御苦勞様で御座います。

日々の御苦勞、私どもは内地に居りまして、毎日ラヂオのニュースや、新聞の記事を見ましては、心から御禮申上げて居ります。

内地は、漸く秋深くなつて参りましてはヒイヤリと致して参りました。戦線は嘘かし冷氣もひとしほと存じます。

どうぞ御身御大切にして下さい。そして元氣よくやつて下さいませ。私達、折にふれ時にふれ、愛國行進曲の聞こゆ時、日の丸行進曲の聞こへる時、元氣よく歌ひます。今この時、みんなは元氣で、何んだつてやらなければならぬ時ですものね。

兵階さん、元氣でね——

私達、銃後の者も元氣でやりますよ。

みんな提つて、元氣でね



を呼びませう。

大日本帝國萬歳!

一日も早く明朝な、本當世の中が明朝な日が来るやうに祈ります。

× ×  
兵隊さん有難う

中 座 松 平 芳 子

兵隊さん! 有難う御座います。

日々の御勞苦御禮申し上げます

御身御大切にして、戦ひの時には、一人でも餘計にやつつけて頂戴な、實は私の弟が、戦死したのです。それだけ一層、私は、皆様の元氣をお祈りしています。

或る夜、弟の事を思ひ出して寝られないままに歌を作りましたの……歌つて大層なんです、思ひ浮んだまゝ書きつけましたの、

1、お上のお召しで門出した

弟の姿、いまもなほ

臉とづればその奥に

ニツコリ笑つて立れて居る

2、弟はハツキリ云ひました

元氣でやつて参ります

姉さん體を大切に

子供の事は頼みます

3、何日も暢氣の弟が

戦死の知らせうけた時

よくも散りしよ櫻花

思はずホロリと袖ぬらす

4、お前も残したいと子は

命に代へてもこの姉が

立派によい子に育てます

靖國神社で見て居てね

× ×  
星を仰ぐも兵隊様のお蔭

中 座 浪 花 千 榮 子

いま、私達の仰ぎ見るはつ冬の夜空は星を鑲めて美しく澄み渡つて居ります。

彼の星も、此の星も、戦地の皆様の上にもまたゝいて居る同じ星と思へば、心は遠い支那の地に馳せて、どうぞ皆様、御無事であれと祈らずには居られません。

北斗は星の部隊長様か

明けの明星は、曉の爆撃行の海鷲か

宵の明星は、薄暗に敵を搏つ陸鷲か

流れ星は、きつと兵隊さんの肩の上に落ちて、御武勳の星となるのでせふ。

星は人の運命を司どるとか、ほんとうに星にその魔力があるなら、きつと戦場の夜を護つて下さると思ひます。

安らかに私達が星を仰ぐことの出来るのも兵隊さんのお働きのお蔭、お星さまどうぞ戦地の皆様に、銃後のものは心からお禮を申して居りますとおつたへ下さいませ。

## 皇軍の勇士御身を大切に

角 座 六條 奈美子

東洋平和確保の爲め、戦ひ續けておいでになる、皇軍勇士のみなさまの、御辛勞を承る時。妾達はどんな、御奉公を申し上げても、充分と云ふ事は御座いません。

銀嶽の勇士が勞苦を憫ぶ時

我男の子ならばとつくく〜と泣く

み社にぬかづきて眼とする時

勇士が御姿雄々しくも映み

幸達銃後國民の願つて居ります事は、一日も早く日本の重い使命を果されて、新東亞確立の春風が吹き、みなさまが意氣朗

らかに、凱捷なさるゝ日で御座います。

どうか皇軍のみなさま、御身體を御大切に、御活躍下さいませ。すやう、舞臺の蔭から、只管御禱り申上げて居ります。

## 衷心よりお禮申します

角 座 若葉 蘭子

君がため世のため何か惜からん

すてゝかひある命なりせば

宗良親王のお顔のまゝを、實踐なされて居らるゝ、吾忠勇無雙の皇軍將士の、みなさまに對して、有難う御座います、本當に有難うございます。と衷心よりお禮申上げるより外ございませぬ。

冬は月光も凍り、夏は冷泉も湧く、とか、承つて居ります。

その御辛勞の程を拜察申せば、婦女たる私共も、出来る限りの力と、誠を以つて銃後の護りをかため、みなさまにお心をきなく、膺懲の駒を進めて頂き、一日も早く東洋永遠の平和を、齎して頂けるやう、心がけると共に、紙上慰問の末端に加はり心から、みなさまの御武運の長久をおいのり申上げます。

## 武運長久を御祈り

角 座 小栗壽々子

アジア興せば世界は暗れる。

今日本の國は重い便命に、はる／＼海を渡つて果てもない大陸の曠野進軍——荒涼たる異郷に日夜寢食を忘れて御活躍下さる、吾皇軍將士の皆様方の御苦勞の程を、現地報告の書物に拜見したり、歸還なされた御方のお話を伺つて何時もながら胸を打たれ只管感謝致して居ります。

でも拙い此の筆にはとても話は出来ません只々尊い日本國の民草の一人として恥かしからぬ銃後を護つて、専念し聊かたりと皆様へ御むくひ致したいと念じて居ります。日と共に寒さが加はる折柄切に御武運長久を御祈り申し上げます

## 皇軍の奮闘に頭がさがる

角 座 勝本峰子

お懐しふ御座います。

親しくお言葉を交しました事は御座いませませんが、ニュース映畫で、新聞やラヂオで、雜誌で、街路の時事寫真で、お芝居と映畫で、皆さまの御奮闘のさま／＼に接しまして、感謝の讃仰

の念が溢れます。

皇軍將兵の皆さま、有難う御座います。民草の細々たる一草にすぎない私でも、皆さまの御該忠のお蔭で、生きつゞけられます事、泪ぐましよう存じます。それは喜びと申しては、皆さまに濟まないやうな、——感激の有難さで御座います。

演劇報國と申すと、鳥潛しい沙汰とお思ひでせうか。私儂倅にも、皆様の御知合ひが、御家族が、御縁者の前一人でもが、もし銃後慰安のお時間を私たちの拙く悲しみと喜びの人生似顔繪見物にお過し下されば私共も或は報國の一助になるかしらと考へる時が此の頃の楽しみで御座います。

皇軍將兵の皆さま、お國の秋は、皆さまの勇しい軍靴の響とともに一日／＼と深くなります。皆さまが、私の拙い綴方を御覽下さる頃は何時頃の季節で、何んな風貌の土地でせう。皆さまの輝しい御名譽から興亞の和平が霽れて到來する日を切望しております。

## 銃後の一員として奮戦

角 座 澤みや子

北支、中支、南支、滿蒙國境戦線の皆様。

日夜御奮闘御苦勞のほど、感謝のほかは御座いませぬ、内地では昨今、ラヂオの氣象通報で、日によつて、二三度高かつた



り低くかつたり氣候不順を報じておりますが、何と云つても内地は、有難い菊日和で松茸の香も匂ふこの闌秋の明け暮れに、私共がこうして毎日舞臺の勤めが出来るのも、全く皆様の御蔭だと、勿體なく存じて居ります、この上はたゞ銃後の一部員として、私共に出来るだけの事は致し度いと、日夜心身に鞭打つて居ります、それには私共は、演劇報國として忠實に自分達に課せられた職分を守り、各役々をして真面目に研究努力して少しでも銃後の皆様に肝銘慰安をお與へする事に勤めてゐるつもりで御座います、私共の劇團でも度々時局劇を上演致しまして戦線の十字砲火の塲面、銃後の美談などを御覽に入れ、ておりますが、そんな時、舞臺に立つてゐる私自身が時々一言二言の科白の感觸を受けて、涙が出てたまらない事が御座います、それは皆様方の御奮戦振り、熱灼下の突撃、人馬泥濘の難行、さては滿蒙國境吹雪の進軍等々の感涙なくしては拜見出来ない有様が雜然と一時に腦裡に浮んで來るのです。

皆様、私共は場合によつて、眞夏に絲入れを着せられなり、寒中に裸體に近い恰構したりします、そしてその場合ウツカリと、寒いとか暑いとか、口走る事が御座いますが、そんな時には、戦線の皆様の事を想像して勿體ないと存じ、お互が罰金を處して貯金に廻はし、献金をした事も御座います。

戦線の皆様いよゝ寒くなつて参ります、和平建國の爲め何卒御身體御達者に御願ひ致します。

お茶と軽いお食事

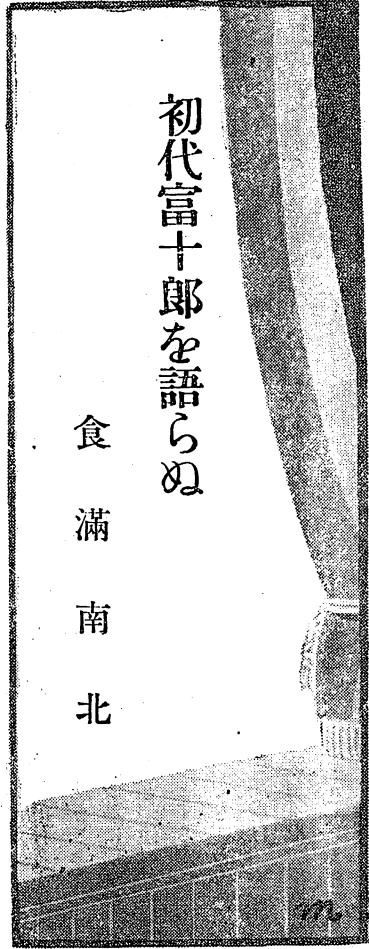


和やかな  
ガスピル西横

きみの  
茶房

# 初代富十郎を語るぬ

食 満 南 北



△道頓堀から初代富十郎を語れといふことだが、それは私が岡

島さんや、南木さんから拜借したのは、衣裳の参考のためなので、其中からだま〜初代富十郎のことがいろ〜と判つたからと云つて、レイ〜と語るのは少し鐵面皮である。だから私は語らぬ。

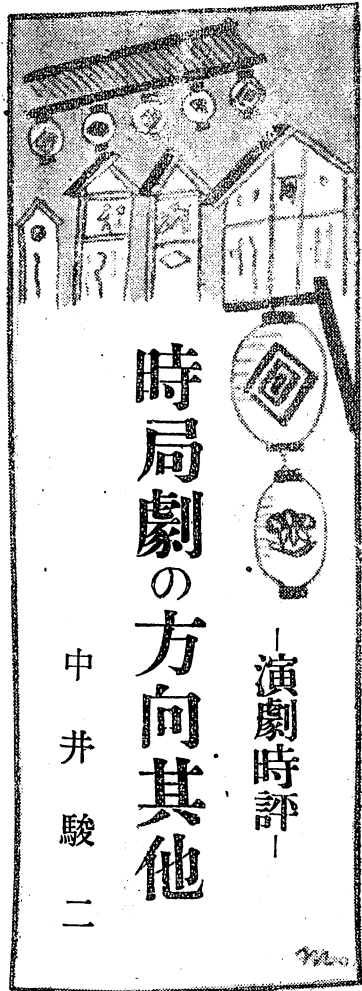
△そのかはり私は、富十郎の舞臺の衣裳のことで白狀してしまはふと思ふ。私ははじめ神詣から歸つてくる富十郎に社杯を着せたのだが、これは梅玉丈が羽織にしてくれいといふことで改めた、第二は富十郎の平常姿を古圖によつて大振袖の端手なものを着せやうとしたが、加代との戀物語があるので、

ゐる。

△それから私は加代に白地に朱竹の衣裳を着せたが、うしろに白い降子があつたので、これにのれんにつるすことにして貰つたところが内緒だが、こののれんがまた富十郎の衣裳とついたので、少し出そろつて樂になつたらかへて貰はうと思つてゐる。

△私にもこんな人知れぬ苦勞がある。何にしても、文樂に私の新作が上演しられなかつたらこの月は衣裳屋南北れになつてしまふところだつた。

男に見えるやうにしてくれといふ註文が脚色者から出たので、とても割切れぬこしらへになつてしまつた。初日に會長がこの富十郎のこしらへが老けすぎると云はれたので、私は氣にした二日目は文樂座へ行つてゐたのでちよつとあつらへと出しに歸らなかつたが、恐らくもつとと端手なのと着かへてゐられることだと思ふ。三日目のけふは行つてよく相談して見やうと思つて



— 演劇時評 —

時局劇の方向其他

中井 駿 二

さを入々は感じるものである。戦闘のもつスリル感は舞臺化さるべくあまりに壯絶であり過ぎるのである。殊に實感の體驗をもつ観客には、舞臺上の戦闘はあまりに白々しいものとしか感じられないであらう。

銃後の人々を訓育し教化し啓蒙し宣傳し且つ慰安を與へることを目的とする軍事劇は勢ひ銃後そのものに取材する

聖戦第二の段階に入ると共に一時はさしもに全盛を極めた軍事劇もその影を潜めるに至つた。理由は種々敷へられるであらうが、その最も主要な原因は、戦闘(廣い意味での戦争ではない)の舞臺的表現が、如何に精巧を極めた現在の舞臺機構をもつてするとも、現實の戦闘がもつ凄惨さや壯絶さ、一種の不氣味な静けさや緊迫感を迫真的には表現し得ないといふ點に盡きると考へられる。炸裂する迫撃砲や銃弾のひびき、飛行機の爆音、突撃の喚聲、その間に展開する必死の状態に置かれた人間心理の微妙な流動などは、よしそれが舞臺化されても、たゞ眼前に描き出される隔絶された事實としてしか映らないもどかし

時局劇たる貌をとらざるを得ない。事實これまでに現れた軍事劇の中比較的佳作と考へられるものは、殆んど銃後物であつたといふことができるであらう。その銃後物も戦ひの後に來る建設といふ段階に情勢が進むにつれて次第にその方向に轉換しつゝあることが注目される。茲に所謂建設物なる一ジャンルをさへ産まうとする氣勢が指摘されるのである。だが一概に建設物とはいつても、戦争の後に來る新東西大陸の建設に直接關聯するものの出現は、未だ情勢が充分に熟し切らない状態にあると共に、素材採取の困難も伴つて早急に望むことは不可能であらう。その故に一般的な建設進取の氣概を昂揚することを内容とするものが相次いで現れつゝある氣運にあると考へられる。例



へば新國劇の「土に叫ぶ」先驅者の旗」、前進座十月中座上演の「大日向村」歌舞座十月上演の「日柳燕石雨の鞍橋」、新生新派の「日柳燕石」などそのジャンルのものでして敷へられそれらはいづれも新しい貌の時局劇として充分の意義と價值とをもつものであるといひ得るのである。

## 二

前進座の「大日向村」は和田傳氏の農民ものゝ一つ「大日向村」を脚色劇化したものであるが、長野縣の一寒村大日向村が窮乏の爲自滅しようとしてゐるのを村長深川、産業組合事務堀川以下數名の先覺者達が自村救済の爲滿洲に分村移住の計畫を立て、遂巡遲疑する村民を勵まし、分村に反對する債權者を説き伏せて出發するまでの経過を、死を以て戀人の移住を決意せしめる純情の少女の事件を織りませて劇化してゐる。この戯曲には際立つた主人公といふものがない。經濟的な運命にひしがれつつそれに抗して環境を打開して行く一群の集團をいはず主人公とする異色ある構成をもつものであるが、かうした集團をヴィザイドに描き出すためには、集團の運命展開のモチーフとなるものを明確にしなければ充分なる劇的効果を擧げ得ない。即ち主人公たる集團の意志に對抗するアンタゴニストたる他の意志が強固で且つ妥當でなければならぬのである。例へばハウプトマンの「織匠」の塲台を考へて見るが、いゝところ戯曲「大日向村」では集團の意志に對抗するものとして貧窮、そ

の原因たる債權者の頑固、愛郷の絆、等が考へられるが、それらを代表する例へば農夫工藤、地主天川、淺川等は他の堀川、安川、村長等に比して表現が不鮮明であり力が脆弱である。脚色者は分村の計畫が成就し、移住を決意して出發するまでの運びを急ぎ過ぎた爲、スケールの雄大さに拘らず、全體としてのドラマテイク、パウワーに於いて強靱さを缺く結果を招いてゐる。尤も政府後援の國策劇であること、實在の人物を拉し來つてゐるため、脚色上多くの制肘を受けたことが考へられるがたとへ當局が窮乏の爲分村するのではなく、民族大陸發展の爲移住することを強調せんとしても、民族が大陸まで發展せざるを得ないといふことの根底に横たはる事實、即ち人口過剩、貧窮の事實は掩ふべくもないであらう。そのやうな制肘は却つて劇的葛藤を弱めて効果を薄くし、率いては當局の意圖する啓蒙宣傳的意義をも稀薄とすることを當事者は深く考へねばならぬであらう。われわれが關心と興味を持つのは、かゝる大陸移住の事實的報告や出發の劇的スケッチではなく、移住後の苦患に満ちた建設の過程なのである。このことを如何に劇的に表現するかは、前進座に對して課せられた次の重要な課題でなければならぬ。

演出を擔當した山川君は曾ての群集劇での長い修練を巧みに生かしてその手腕を見せた。特に「村の集會所」「枝井川の磯」「村の沿道」での舞台指揮は賞賛するに足る。但し第一幕は脚色演出等再演に際しては充分の考慮を用すべき點が氣付かれた

俳優では芒洋たる風貌をユーモラスに描き出した長十郎最もよく、翫右エ門は残念ながらこの役どころでは彼の卓れた演技力の全貌を覗ふことができない。

### 三

尙この一座で問題にすべきは歌舞伎劇の再検討なるモットーを掲げて歌舞伎十八番物その他を中幕時に撰んで上演してゐるが、それがそれ程の意義と價值と効果とがあるか、その事の方が却つて検討されなければならない問題であらう。歌舞伎の再吟味といふ事の意義は、歌舞伎のもつ傳統を尊重しゆかめられた演出ではなく、正しい型に則つた演出をもつて上演することか、或は歌舞伎を現代的に解釋することによつて新たな生命を吹き込むことか、さうでなければ埋もれた古曲をシステマティックに掘り出して上演し正しい傳統を明らかにすることかにあると考へねばならない。ところで従來、前進座が上演した「観進帳」「毛抜」「鳴神」「秋葉權現廻船斬」「暫」等の實質的な効果は如何なるものであつたであらうか。「秋葉權現」は古典上演の意味をもつものとして暫く措くとしても、他の歌舞伎十八番物の上演の結果は、果して古典を充分に再吟味した上での新たな構想工夫が見られるであらうか、それとも正しき傳統の追求がなされたであらうか。この一座にして初めて見られるといふが如き古典歌舞伎の眞正なる型の保存、その古典的精神の揚昂、演劇的氣魄の顯彰があつたであらうか。詳しくは次の機

會に論じたいと思ふが、この一座でも尙十人番物がやれるといふ程度の結果でなかつたならば幸ひである。特に今回の「かさね」に至つては上演の意義何處にありやと借關せざるを得ない國太郎一個の事情によつてかゝるものを撰んだのであるならば遂にこの座の古典歌舞伎上演の理由も單なる御都合主義に墮したと斷ぜざるを得ない。

### 四

十月歌舞伎座關西歌舞伎の人々によつて上演された「日柳燕石」も亦時局的意義を持つ建設物の一種と考へることができであらう。こゝでは建設の意味が暮末維新の新秩序の大成といふことになつてゐるが、現在の情勢に照應して充分興味を持ち得る題材である。この題材は期せずして演劇映畫共に劇化競演の貌となつたが、郷田真氏の手になり「雨の鞘桶」は大いに買はるべき力作であり、努力作である。だがかゝる博徒にして詩人、勤王家にして放蕩無頼といふ複雑怪奇な性格を表現することは恐らくこの作者のあまり得意とせざる領域なではあるまいかと考へられる。

凡そ歴史的人物のポルトレを藝術的に描き出すためには、創作以前に作者とその人物との間に激しい共感同化、又は性格的な衝突ともいふべきものゝ燃焼がなければならぬ。でなければ感動すべき性極の表現は不可能であり、單なる人物行狀記の劇的スケッチたるに止るのである。作者郷田氏は情痴人情の世界

を巧みな劇的技巧を以つて描き出す卓れたドラマティストの一人である事は確であるが、イデオロジイ的にはかゝるテーマと融合し得る作家ではないであらう。その爲にか、構成上素材に引きづられて混乱してゐる點が露呈してゐる。即ち家庭人としての燕石と博徒としての彼と、勤皇家としての彼との深然たる統一がなく分離し、劇的高潮を内面に心理の發展の上に盛り上げる事が出来ず、捕手の追求といふ外部的な楔機の上においてゐる脆弱さが目立つのである。

壽三郎の抑した燕石はその努力にも拘らず、たゞ燕石の一面的表出に止り、複雑なる性格の多元的表現が見られなかつたのは残念であつた。この劇を通じて最も賞讃すべきは我當の佐太郎であらう。脚本もこの人物は最も簡潔に統一に描かれてゐる爲か、我當の演技は適確妥當であつた。難役でない爲に獲ち得られた成功であるとも考へられるが、新作に對するこの俳優の並々ならぬ研究の努力が根底にある事も忘れられてはならないであらう。いつもは聞きとり難いセリフも比較的明瞭であつた。筆者は初期千代之助時代からの観客であるが、この人の進歩は飛躍的でないにしてもその確實な足どりは大いに買はるべきであるかと考へるものである。鈴木英輔君の演出は舞臺整理が巧みである以外、積極的な演出意欲を感じる事の出来なかつたのは遺憾であつた。

## 五

筆者は常に考へるのであるが、關西の歌舞伎俳優陣は豊富にして而も貧困であることが惜しまれてならないのである。例へば十月歌舞伎座興行の如き座組による場合、幹部過剰の爲に配役難に陥り、演し物撰定に困難を來し、興行時間の制限と相俟つて愈々脚本の刈り込み、カットを多くし、観客に充分なる演技觀賞の餘餘を失はしめる。一方、少數幹部制の座組による時には、俳優の観客牽引力が低下し、興行採算上支障を來すといふ事實である。因襲が牢固として蔓延る歌舞伎の世界を一舉にして革新することは困難であらうが、次代の俳優を養成し鞭撻する爲、観客に眞によきものを與へる爲、レパトリーの撰定を嚴にし、世俗的な意味でなく眞のベストメンバを揃へた座組みによつて名曲の上演を行ふべきである。このことは切に松竹當事者の慎重な考慮を促して已まない。

## 六

現在の観客が常に希求するものは清新にして良知ある現代劇の上演といふことであらう。藝術はある意味で現實の反映であるといひ得るが、現實が最も明快な貌で反映し得るのは、観客をとりまく現實の環境と同一なるものに取材する時でなければならぬ。演劇が古來、最も盛であつた時代には、常にそれは民衆を教へ、導き、考へさせ、精神や生活を新らしく組織せしめ



る重要な社会的な因子であつた。民衆はあらゆる場合藝術の中に自己の生活や、頭腦の據りどころとなるものを求めてゐるのである。小は日常の風俗や習慣、言語から大は一個の人間としての世界觀に至るまで、自らをその中に寫す鏡として演劇を求めてゐるのである。たとへ意識的に自分は藝術の中に娛樂しか求めないと高言する觀客であつても、無意識的にはその藝術の中に自らの姿を探し求めてゐるのである。この意味において今何よりも求められるのは、現代の良識の上に立つ新しいモラル適正なる言語風俗を盛る現代劇であらう。

このやうな見地から、注目されるのは十月角座新舊合同劇によつて上演された「新女性問答」である。勿論そのテーマとするところは通俗的なものである。友情と肉親愛との相克、藝者の自己犠牲的な精神に觀客は泣くのであるが、通俗的ではあつても卑俗に墮することを辛ふじて止めてゐる良識、ひらめいてゐた事を喜ぶべきであつた。

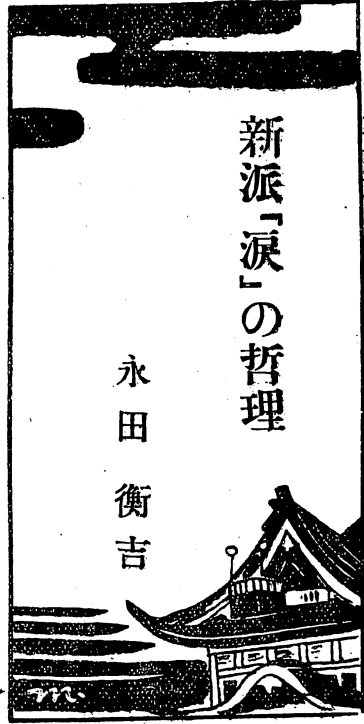
戯曲構成は梅野井の扮する藝者お葉の件と大路の路子の件と瀧の時代の件とのつながりが緊密でない爲、小起伏が頻發して大高潮の力を弱め、龍頭蛇尾に終つた物足りなさはあるが、最後まで興味をつなぐことは出來た。いつも感じることはあるが、この一座の脚本構成は興行時間に縛られてか、筋を賣ることとに忙しく、段取手順は明瞭であるがそれに至るまでの心理轉換の必然性を十分に明にしないもどかしさを觀客に與へる。例

へば「新女性問答」の中でも、時代が路子の爲に辯護に立つ時の経緯など甚だ飛躍的に唐突であり、村川の扱ひ方も極めて御都合的でこの役は一つの性格としてではなく狂言廻しの役をしか果してゐない。その故に笠川の演技は類型而も不明瞭な類型に墮してしまつてゐる。梅野井の藝者は手に入つた役どころでもあり、仕勝手のいゝ見世場もある爲、これまでに演じた藝者物のうちでも成功したものの中に數へられるであらう。だがこの人の將來戒心すべきは昔の振幅の甚だ狭少なことである。瀧はよく自らを矯めてゐた。法廷の場面ではやゝ柄の少さゝが嘆じられたが演技の中心となる時代の性格内容に深く沈潜して支柱を崩さなかつたことは見事であつた。都築の辯護士は寡黙の裡に舞臺を引しめてゐたのは流石に新派のヴェテランたることを思はしめた。

この劇團は新派新劇及びその他の系統の俳優を雑多に擁してゐる爲、演技のアンサンブルのよさといふものを樂しむことが從來不可能であつたが、この頃ではそれがあまるとまりをもつまでに進展したことが看取される。だが注意しなければならぬのはさうしたまるとまりが、優良の演技的修練を経た後のまるとまりではなく、多くは妥協による統一であることである。だがそれもこれまでに見られたやうな舞臺の上で「喰ふか喰はれるか」的な俳優相互の對立に比べれば格段の進歩といふべきであらう。とまれこの「新女性問答」一篇は最近の同座のヒットであつた事を賞讃しよう。

# 新派「涙」の哲理

永田 衡吉



新派から涙を奪ふことは天より太陽を奪ふがごとし。

發生期の新派はちがふが、新派が新派としての演劇認識を獲得してきたのはその「涙」——悲劇性の賜物である。

演劇はその性質から大別して悲劇と喜劇とに分れ、更に近代に至つて社會劇といふ一範疇の加はつたことは周知のことである。しかして、新派はまさにその中の悲劇の擔當者なのである。輓近、ともすればお涙頂戴とかホロリズムとかの蔑語を以て新派を批評する者があるが、それだからと言つて新派が、悲劇を擲つたならそれこそ大莫迦た。

併しこれだけのことはよく銘記すべきだ。

在來の低俗な大衆心理に訴つて使ひたしたアノ手コノ手で悲劇を構成しやうとしてはもういけぬ。

脆情の女性ばかりでなく、男も泣かせかせるやうな眞に現代的な内容をもつた悲劇を作ること、全新派は傾倒すべきだと思ふ。

この四五年來、新派内部にはいろの革新運動（？）が起つた。しかし我々から見ると、その標的とするところのものがどうもアヤフヤで、一吹きすれば吹きとんでしまふやうな理論づけばかりであつた。

それではいけない、我々新派を愛する者から言へば新派はどこまでもその悲劇物に根幹を据えて人間の深い心理と社會機能からくる人間生活の相剋から眞に涙すべき現代劇を日に日に打ち成して上げて欲しいのである。新しい明確な目標もないのに新派から「悲劇」だけを抹殺したらそれこそ太陽のない劇團になつてしまふだらう。

# 「渦巻」

## 初演の頃

吉本寛汀



大正二年十一月、浪花座で「渦巻」を初演したころは新聞小説劇化の競争時代とでも言はうか「生きぬ仲」「百合子」「渦巻」と、相次いで道頓堀に錦を削つた、しかもそれは大毎と大朝、幽芳と霞亭の對抗戦でもあつた、従つて新聞社の宣傳も華々しく、菓子にも着物にも、結髪にも「百合子巻」だの「渦巻館」だのと、題名を冠した流行品が市井に氾濫した。

その頃の大坂劇壇と言へば、歌舞伎はやはり鴈治郎、延二郎

(今の延若)が中心で、梅玉(先代)齋入巖笑、多見之助(後の多見藏)吉三郎(先代)なども健在だつた、劇場としては今の文楽のところに近松座あり、北に堂島座(現大毎社のあたり)あり、松島の八千代座では仁左衛門(先代)が「桐一葉」や「春雨傘」二の替りに「義士劇」劇文章」などを出してゐた、成人卯三郎の馬方丑五郎なんか絶品のものだつた。

草人、浦路、孔雀らの近代劇協會が近松座で「人形の家」を演つたが、是より先きにつた抱月、須磨子の藝術座や左團次の自由劇場、等々、新劇運動擡頭の機運の中に、これまでの型に嵌つた新派劇に嫌らぬ河合、小織が公衆劇團を結成して帝劇に旗上げをし、次いで來阪したのもその頃だつた。 Hoffman・ス タールの「エレクトラ」や松居松葉の「茶を作る家」の、當時としては一歩前進した新しい演出は、慥に新派の前途に示唆の一石を投じたものと言つてよからう。

角座を本座として華やかかなりし山長劇、主に辨天座に擧つた

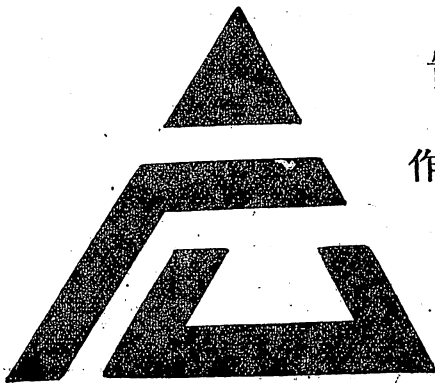


喜劇の樂天會、喜樂會なども道頓堀を賑はしたものであつた。

この邊では「渦巻」初演の時の珍談を二つ三つ披露して稿を終らう、その一つは高昌の居間の場、高田の金杉が貞奴の政子を招喝して、喜美子を五十萬圓に賣つけ、預り證書を書かす所があるが、最初稽古の時には三萬圓だつたのを、それでは蕪すぎるといふので五日目頃までは五十萬圓でしてゐたが、その後また値下して十萬圓で千秋樂まで押通した、喜美子の相場は一高一低などは振つたものであつた。

それから妾が本妻を叩き出す役廻りの貞奴は見物からひどく憎まれて、ある日大詰の東大路家洋室の塙がクライマックスに達した時、昂奮した見物の一人、北河内邊の呉服屋某が立上つて、貞奴の政子を目掛けて物を投げ付けたので大騒ぎとなつた。そのほか下市村はづれの塙で、藤井六輔の馬子の友藏が曳いてゐる馬が、福島清の村長にからかつた爲め、花道で後脚を一本踏みはづし危なく平場へ馬が轉げ落ちかけた。なんとも樂屋咄に一つの殘つてゐる。

# 廣告商事社



あゆら

宣傳廣告

プロセ

美術看板製作

田中勝造

大阪千日前  
電話三七九〇番  
メナク



# 津太夫藝談抄

私の師匠、先代津太夫(法善寺)が沼津を始めて語られたのは明治十年頃、松島の文樂座で奥を盲人の住太夫、小揚が師匠の持ち場でした。その後、七十二才で歿くなられるまで、度々語られたもので、沼津と云へば津太夫のもの——津が沼津か、沼津が津かとまで稱へられ、伊賀越が立てば沼津は津のものと決つてゐたものです。その師匠の語られた沼津を何時も傍で私は白湯を汲み乍ら聴かして戴いたのです。その頃、師匠は千日前法善寺から御靈文樂まで二人乗りの人力車で通はれたもので——この車代が僅か五錢でしたが、車の中でも絶えず語り方の工夫をしてゐられました。その師匠が、自分は沼津を語つてゐるがどうも平作が平作にならないと始終氣にして居られたものです。その後、師匠も六十を越してから、やつと七十歳の平作が語られる様になつたと思ふと迷惑されたものです。平作の熟り方も人によつては表現の仕方が違つてゐまして、先代のは殊に床本から解釋して、餘り達者でない普通の父親としての手作を語られました。つまり「七十で手が届」いた老翁、「ヤツト任

せは聲ばかり、一肩往つては立止れり、荷物を擔いでは「足元茶のいた物ぢやの、亂れなど」と云ふて、傳援事に成りさう」な足取りの手作として解釋して居られた。所が先代の大隅さんが沼津を語られると、この手作は決して弱々しい手作ではなく、元氣な手作でした。つまり、齡は七十を重ねても、道中に雲霧の出来る様な男——との立塩からの手作でした。所が、晩年に攝津大塚さんが、沼津を語りましたが、この方は伊賀越の六つ目、つまり沼津は全曲の三段目に當ると云ふ所から、總べてに重みをつけて、所謂三段目の曲風で語られた——だから重兵衛にしても「町人なれども重兵衛は武士も及ばぬ丈夫の魂」と武張つた語り方をなされてゐました。それから、最後の手作の臨終で、重兵衛に抱かれて南無阿彌陀佛の念佛を唱へる付りにしても、私の師匠は、手作は腹を切つて息絶えんとする際であるから、ナムアマミダブツ、ナナナ……とばかりでアマミダブツまで唱へられない、ナアナアナ……と苦しみ乍ら唱へるばかり

と云ふ風に寫實的な語り方をなされたが、これはいさゝか餘談になますが、先代はよだれくりの津太夫と云はれた程の方で、この件りではそれを胸の邊りはべとべとになる位、ナアナア……と苦しい平作の落ち入りを巧みに語られたものです。所が例へば、木谷の彌太夫さんではこの件りをお経めいた——つまり平作は老人故、日頃から經文に親しんでゐる筈である。念佛は口癖の様に出る筈であると云ふ所から、南無阿彌陀佛、南無阿彌陀佛と讀經を加味した風な語り方でした。そこへゆくと、攝津大塚さんでは前にも述べた様に、この段が全曲の三段目と云ふ曲風から總べてに強い感じを盛つて居られました。そして「小石拾ふて白刃の金、合はず火影は親子の名残りの段切りで、娘のおよねが平作の死骸に取りすがつてトトサン、トトサンと泣き口説くと云ふ珍らしい型もありました。私もこの度十一月の文樂で沼津を語つてゐます。勿論師匠方の様には巧く出来ないと思ひますが、一生懸命勤めて居ります。今度も會社から八つ目岡崎の段をやつて呉れぬかとの話もあり、今までも八つ目は御靈時代道八さんの糸で、また四つ橋でも綱造さんで語つたこともありすが、矢張りこの沼津を語ることにまします。そして先輩方の語り方を参考にして出来るだけやつて居ります。

十一月の文樂座に沼津を語つてゐられる津太夫師を二日樂屋に訪ひ、沼津を中心に親しくお話を伺つた時の覺え書きをたよりに書

かれたもので、紙數の制限もある事とで、この程度しかお傳へ出来なかつた。たゞ筆者の無力がコクのある伊太夫師の昔談の片鱗をも再現出来なかつた事を恥ぢ文責は擧げて筆者にある事を明らかにする。  
中村生

北大阪の名物

腰掛天婦羅

御料理

北新地 與市

電、北、四〇二、二三六三

交通至便、祝儀全廢

市電櫻橋交叉點北ノ辻東入ル

和洋旅館 櫻橋寮

宿 二圓半 三圓半

電北四五八二



# の 月 一 十

去る十月歌舞伎座に關西大歌舞伎が中村富十郎を偲ぶ「葛の葉さんげ」を上演したが十月二十八日午前十時から竹松では中寺町薬王寺に於て初代富十郎墓前報告祭を行つた、白井松竹會長を始め松竹奥役、幹部、梅玉魁車、壽三郎、市藏、延若及び名題俳優二十三名に高安吸江、岡島真藏、南木芳

太郎氏らが出席して食満南北氏が富十郎狂言上演の報告をなし、一同追慕の焼香を行ひ本堂前の墓前に一同参拜した。

× ×

目下角座で連日素晴らしい人氣を博してゐる新舊合同の梅之野、小太夫らは去る十一月一日その當り祝ひを座員總出で行つた

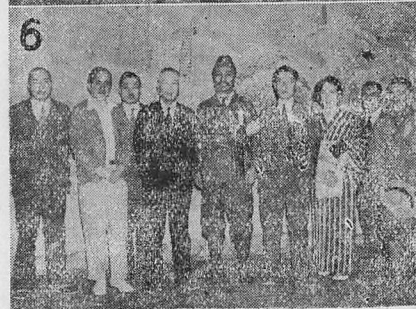
十一月三日、夜日本視察旅行中の南米アルゼンチン、ウルグアイ兩國の中等學校女教員團一行七名は大阪市内見物の後大阪アルゼンチン名譽領事村榮造氏に伴はれ、四ツ橋の文樂座を觀劇、豪華古典藝術の粹に陶醉特別室にて紋十郎の人物解説を聞いた。



## 年本なかや花

十二月の京阪神各座は京南座の吉例顔見せ興行を始め、中座の東西歌舞伎の精鋭を網羅した奮闘興行、歌舞伎座は吉例の五郎劇が歸演、花々しく本年掉尾の演劇藝陣が決定、先づ▲中座は壽三郎を始め扇雀、霞仙秀郎、延二郎、八百藏、奥山連の大阪方に對し我當、勘彌、鶴の助、鶴藏等の東京連が來演東西の精鋭連を網羅した奮闘劇、出し物は第一食満南北新補並演出、大塚克三舞臺裝置「粟山大膳」四幕第二淨瑠璃「一曲輪廻」一幕、文樂座太夫三味線特別出演、第三眞山青果作田島淳演出「人斬り以藏」二幕、第四「吉例會我對面」一幕、一日初日毎夕四時開演▲角座は新舊大合同劇が目下絶讃の「光と影」一土佐海兵團」坂本龍馬を廿八日まで日延べ、矢つが早やに堂々四の替りお名残り陣に入る▲浪花座は新興キネマ演藝陣の打ち越し▲文樂座は若手人形淨瑠璃で「假名手本忠

# ム バ ル ア



久しぶりに道頓堀の中座へ出演した前進座へ去る十一月十二日十五年目の女房の作者長谷川伸氏が座員激動のため来阪し長十郎、甑右衛門、鶴藏、芳三郎外数名の幹部と會見した。

東京新派軍對松竹家庭劇軍の野球戦は去る十五日秋晴れに悪まれたスポーツの殿堂甲子園球場で華々しく幕行した、東京軍側から水谷八重子、市川紅梅その他の幹部女優が總出て聲をからして聲援大いに努めた、兩軍最初から火の出るやうな接戦また接戦を展開したが遂に家庭軍のベストも効なく五對四のクロスゲームで

家庭軍惜敗した、機會を見ずて家庭軍は復讐すべく試合をすることになつてゐる。(寫眞、井上正夫、小堀誠水谷八重子)

臣藏」大序、進物、双傷(和泉)裏門、道行旅路の嫁入(相生、南部他)山科閑居(相生、織、呂)「艷容女舞衣」酒屋(綴)夕霧伊左衛門「吉田屋の段」(南部、伊達、和泉、呂ら掛合)「戻駕色相肩」郎噺の段(伊勢、竹、辰掛合)

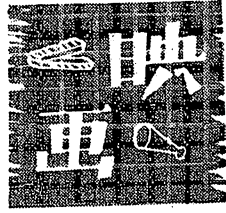
▲神戸松竹劇場は鶴實演藝の特輯プロで爆笑陣を張ると東西の大顔合せ

## 夜の「妹背山」

羽左、幸、仁と梅玉

京阪神の歌舞伎好者の待望の的である吉例京の顔見世興行は東西の大名題を網羅して超豪華興行が展開されるが夜の部の大顔合せに「妹背山」女庭訓「吉野川の場がある幸四郎の大判事に梅玉の定高に、羽左衛門の久我之助仁左衛門の雛鳥が本極り、絢爛な王朝時代に取材した歌舞伎の代表狂言は東西大名題の大顔合せで文字通り當代隨一の好配役であると

## 座各の尾掉



映畫界放談

## 眞價を出した歌舞伎出スター

玉木潤一郎

◆ ◆ ◆  
最近まで映畫スターなんてスタイルさへよければ、かならず一般ファンからチヤホヤされ結構商賣にもなつた物だが、現在はいくら美貌であつても内容のともなはないものは、絶對に育たない、美男スターの澤田清が永年の日活をいさぎよくやめて、實演に走つたのも映畫のむつきしさを自覺したればこそであらう。しかし、實演に走つた澤田清が濱松の某劇場へ第一回の旗擧げ興行をやつた時、想像に反して實にお寒い不入りだつたのは、興行者はもち論、本人も大いにおどろいた、何か原因があることだと調査してみると、澤田清の偽者が來てゐるといふデマが擴大された結果、不入りだつた

◆ ◆ ◆  
ことが確められ太夫元もいさゝか安心して引上げた。映畫社會の悪いことには入社の際は盛に巨費を投じて宣傳するが、さて退社となると空とぼけてそらしらぬ顔をする悪弊が、そのまゝ澤田の旗擧げに反映されたのであらう。

◆ ◆ ◆  
一藝に秀ずれば萬藝に光るといふが、最近の時代劇の大スターが時代の潮流にのつて、素人スター連を引きはなし實力發揮につとめ大氣焔を吐いてゐる。

◆ ◆ ◆  
「殘菊物語」で花柳章太郎が森赫子を相手に、舞台人の眞價を見せたことに端を發し、新興の市川右衛門が「長脇差團十

郎」で、流石の花柳章太郎も遠く及ばぬ純歌舞臺劇の「熊谷陣屋」とか「娘道成寺」等の歌舞伎俳優独自の持ち前を、彼の堂々たる顔や姿態からスクリーン一ぱいに唸りを生じて踊りぬき、久しぶりに右太衛門ファンをして百斗の溜飲を下げさしたばかりでなく、右太衛門對新興の再契約を目前に思はぬ大ヒツトを放つたことは、右太衛門まだ天運の見捨ざる處で、平素の藝道精進を忘れぬお加護なりと筆者もほつと一安心、さて今後いかなる好條件で再契約が出来るか大いに注目に價ありだ。

◆ ◆ ◆  
むつとり右門で有名な日活の嵐寛壽郎と云へば、彼ほど無口な無表情な映畫スターはすくないが、今度の「三味線武士」で隠し藝である三味線と長唄を御披露して大成功、歌舞伎出スターの貫錡を示し寛壽郎は曲者だといふ感銘を深くさせた





# 道頓堀 だんごより

## ◇歌舞伎座

一日初日で東京新派大合同、出し物は第一「温泉紅葉」二場、第二「断髪女中」三幕、第三「海之星」二幕、第四「小梅と一重」二幕、第五「渦巻」四景の名作五本立に主なるメンバーは、喜多村、河合、井上、水谷、小堀英、伊井、山口、村田嘉久子等で人氣を呼んでゐる。

## ◇中座

松竹家庭劇の歸阪、一日初日で五本立て興行、出し物は第一「お腹の子供」二場、第二「報恩餅」三場、第三「銃後の家」二場、第四「あきらめの涙」二場、第五「笑話醉虎傳」二場、十四日まで上演。十七日初日に二

の替を出す。出し物は第一「赤い運動帽」三場、第二「報恩餅」三場、第三「黒子」二場、第四「粹なお母さん」三場、第五「結婚二筋道」二場。

## ◇角座

新舊大合同劇は十月に引續き廿一日初日に二の替り公演。第一「金色夜叉」五幕七場、第二「菊の葉」二幕、第三「小栗栖長兵衛」一幕。十八日より大入つゞきにて三の替り狂言を出す、第二「光と影」三幕七場、第二土佐海兵團「四幕七場。メンバーは小太夫、梅野井、都築、笈川、瀧、六條等で

## ◇文樂座

この所未曾有の活況を見せてゐる文樂座は、本年より霜月顔よせ大興行と銘打つて一年一度の吉例制を布くことになり（十月より）久々の鶴澤友次郎に復歸の鶴澤清六竹本南部太夫三味線人形一座總出演で華々しく一日初日の蓋を開けた。出し物は第一回狂言「伊賀越道中双六」政右衛門屋敷より阿崎の段まで、第二「甚太平記白石斬新吉」

原揚屋の段、第三鶴澤重造作曲「新曲紅葉狩」の豪華陣。

## ◇浪花座

一日より新興演藝部總動員新作漫才競演大會を開催、主なるメンバーはミスワカナ・玉松一郎、ミスワカバ・アサヒヒロデ、奴喜蝶等に玉水昌子一座、十一日より二の替を出す。

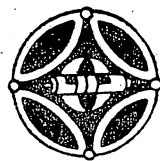
## 元關西相撲の

花形力士經營

旅館  
山錦

大正橋西詰

電話櫻川七八三番



近世上方名優傳

中村宗十郎 (六)

高谷伸

宗十郎と鴈治郎

鴈治郎にそれらの役をさせたことは宗十郎の鑑識によることは勿論だが、さらに宗十郎が鴈治郎をひき立て、第一線に立たせをのは、以上の成績を見極めた上の明治十六年三月中の芝居の忠臣藏でこれは在來の「假名手本」の中へ植木屋が扶まれて大序より敵討までとなつてゐた。宗十郎の由良助若狭助彌七、雀右衛門の師直本藏李右衛門、福助の判官となせ平右衛門、壽三郎の勘平不蘭の方松太郎の顔世不石、芝藺の小浪珊瑚郎の力澤千崎松田太三郎の郷右衛門定九郎、そして鴈治郎のおかると石堂だつた。初日があくると宗十郎は鴈治郎を招いて彌七をよく見て置くやう言ひつけた。中日頃になると宗十郎が病氣といふので休んでしまつた。順序から言へばその代役に福助壽三郎珊瑚郎級がすべきものだつたが、宗十郎は彌七に鴈治郎を推した。それには雀右衛門が納まらなかつたが、宗十郎は押して病氣恢復後もまだ十分でないと言つて鴈治郎の彌七で押通させた。この彌七の好評が鴈治郎の賣出しの第一歩であり、當然延若系統である成駒家

誌

この足立原が問題でヨナイを取つたのは宗十郎だけでなく貞任の延若宗任の璃寛も何とか言ひだす。橋三郎の義宗も納まらず荒五郎の直方太三郎の濱夕といふ中でヨナイを取らなかつたのはみんしの敷妙だけでカーンプレミアムの安達として傳へられてゐる。

が宗十郎に私淑する縁ともなつたのである。

五月にまた名古屋末廣座へ出て「拳揮廓大通」「花魁宮八總」「東都土産戀錦繪」を出し松太郎琥珀紫琴に鷹治郎も伴れて行つた。十月は大阪へ戻つて戎座の大江山に光頼新皿屋敷にお薦を勤めたが、延若の綱と十左衛門、璃寛の茨木と魚屋宗五郎だつた。その冬京都の顔見世は「花雪歌清水」「娼妓誠開花夜樓」「織合襪襦錦」「梅ヶ枝無間鐘」「關取十兩幟」で宗十郎は薄雪の大膳と兵衛、延若は中田小八郎と北野屋七兵衛、璃寛の今紫おとわ鐵ヶ嶽團九郎民部橋三郎の妻平梅の方等に梅ヶ枝は秀二郎改め和三郎の襲名披露だつた。これが後の配落の徳三郎である。

### 圓 熟 時 代

明治十七年中の芝居は一月を鷹治郎猿之助の一座であけ宗十郎は二月の芝居に顔見世で當つた「敵討襪襦錦」の次郎左衛門を出し「鏡山舊錦繪」では岩藤と頼母で福助の武右衛門お初、松太郎の尾上雁治郎の春藤治兵衛で、三月の戎座では「若縁二葉松」「奥州安達原」で藩主重信と袖萩、延若の宮津左京に貞任、璃寛の宗任だつたが立役を主とした宗十郎の袖萩は眉を落してゐないので三榮から舞臺顔の汚ないことを指摘され眉を剃つた代りに百圓を貲代の名義で取つたといふことである。

五月は京都南の芝居で菅原と八犬傳が出て延若の源藏に菅原相と松王で顔を合せ、十月中の芝居「駒池義戀柵」「朝日影芦邊眞鶴」で永井源三郎と百姓孝作を勤めこの時松田太三郎が嵐吉三郎を襲名した。

明治十八年一月末京都南の芝居は宗十郎延若の合同で忠臣藏に銘々傳を加へ宗十郎の由良助若狭助狸角、延若の彌作天川屋小山田鳥取一郎などが呼び物だつた。

その三月宗十郎は番附の改良を主張し今まで半紙型二段組のものを江戸風の新聞紙型繪入のものとし繪は二世長谷川小信が描いたものを我座三月の「葵會我名譽錦草」「東都土産錦繪姿」から用ひる事になつた。宗十郎の役口敷皮の頼朝と鳥目の一角、五月は「花雪歌清水」「何櫻彼櫻鏡世中」で薄雪では來國行と幸崎伊賀守切では紀國屋傳次郎に扮したが、これはベニスの商人の醜案であつた。宗十郎は團十郎の活歴論を排し演劇興味を説いてはゐたが、それは團十郎の如く極端を走るのを戒めたので折衷的漸進主義を本位としてゐたのであることはこの醜案劇上演にも考へられるが勢の越くところ宗十郎も亦その所に止つてはゐられなかつた。

この秋大阪では大洪水があり宗十郎と鞠を争ふた延若が死んだ。宗十郎としては大阪劇壇を背負ふて立つべきだつたが社會狀況も不利だつたし守田勘彌から切望があつたので辭退しきれず三度目の上京をしたが、交換條件だつた團十郎の上阪興行が實現されなかつたので一芝居きりで歸つてしまつた。

その時の新富座は十一月廿四日初日で「有職鎌倉山」「老樹曠紅葉直垂」「船辨慶」で大切淨瑠璃は「熟柿生驛」で宗十郎の佐野源左衛門に左團次の荒次郎團十郎の兵衛で玉笹は秀調の豫定だつたのを源之助を抜擢して用ひたのは宗十郎が秀調の好評より源之助の將來に嚮望し玉笹を演ずるには技巧よりその心持になれと指導し自らも涙を流すばかりの眞情をもつてゐた。こんな縁で源之助を養子にとまで思つたが事情で果さなかつた。この興行でも團十郎に註文をつけて聞かれず終生團十郎とは相容れなかつた。源左衛門の藝は好評だつたが興行成績によくなかつた。團十郎は兵衛の外に白髮染の實盛と船辨慶のシテを勧めたのである。

大阪へ戻つて明治十九年三月我座で「會稽會我裾野鬢」「鬼一法眼三略卷」が出て祐經と満江と大藏卿を勤めた。曾我は延三郎の十郎鴈治郎の五郎で菊畑は荒五郎の鬼一鴈の虎藏でこの時初



註  
明治演劇史に七月大驥平八郎と早田八郎衛門とあれど疑あり

顔見世には別に大驥平八郎と錢世中の二本立の番附もある。不入だつたらしいから狂言を搦きかへて仁木などに改めたかもしれない。

註  
赤穂義臣傳は四月にて三月は菅原との説あれど疑あり當時の状況から見て毎月大歌舞はありと思へず菅原の番附を見たを記憶なし。

舞臺を踏んだ貴川延二郎といふ子役が今の延若である。京都北の芝居の顔見世に日伽羅先代萩の仁木と近江源氏の盛綱で外に璃寛の白綾譚橘三郎の黒船忠右衛門があつた。

明治二十年一月戎座で大搦平八郎言行録と近江源氏の盛綱だが近八の役割は顔見世とはかなり異動があつた。雀右衛門の微妙琥珀郎の和田兵衛で切は我當の早替りて戀飛脚大和往來があつた

### 演劇改良運動

その前年來動いてゐた大阪に於ける演劇改良會運動は織田純一郎、宇田川文海、早川衣水、岡野半牧、久保田米僊等の主唱によつてその萌芽を見出し二月の中座は達模様戀情染分、薩摩湯浪間有影の二本立であつたがこの薩摩湯の月照入水が新劇で京都清水の忠僕茶屋の重助を中之島水明館に招いて當時の状況を聴取するといふ研究ぶりで役割は宗十郎が伊達新左衛門と月照と成就院忍向、雀右衛門が造酒頭若徒逸平近衛公西郷隆盛、吉三郎の江尻平野次郎といふ所であつた三月の戎座は赤穂義臣傳と容蔵出入湊の新明齋で内匠頭内藏助彌作天野屋に鎖倉屋五郎八を演じた。六月は新規作肥後木履と大塔宮義鏑で宗十郎は中川縫之助と永井右馬頭吉三郎の源二兵衛と齋藤太郎左衛門、そして鴈治郎は向井善九郎と花園次第に一家を成してきたのである。その時の駒若が成太郎今の魁車であつた。この初日の前に在阪紳士を中之島洗心館に招き開演當日は建野知平が見物したり別に俳優の學術演説會を開くなど社會的上層部に呼びかけたのは改良會を背景とした宗十郎と仕打三樂の策戦であつた。殊に演説會に宗十郎は勿論鴈治郎も壇上に起つたが、その演題がナポレオンだから愉快である。七月は京都南の芝居で實盛と貢を出した。これは改良落成興行で他に女仕稻荷と切籠曙が出た。

十月には戎座が今の浪花座と改められた。座主三樂も組織を改めて改良劇場會社と稱し第一回興行が宇都宮株木建設九幕と千種穠岬峨月影で本田上野介と秀忠と松平伊豆、雀右衛門の河村鞆負鷹治郎の駿河大納言と大工の與四郎といふ宇都宮は在來の狂言だが宗十郎の仲國に鷹の小督を

配した嵯峨野が改良劇で文海半牧米僮等が後授し想夫憐の曲は徳永里朝が擔當し大道具は長谷川貞次郎が嵯峨へ行つて實景を寫生する衣裳は宮内省御用を勤める京都の高田茂に註文するといふ大瀧りであった。その間高田が註文謝絶といふ小波瀾もあつたがこれは米僮が仲に立つて納めたが二人衣裳代だけで八百圓拂つたといふ豪勢さである。そんな準備のためこの幕が出たのはやつと四日目といふ次第だつた。さて幕があくと舞台は嵯峨といふので下手から花道へかけて薄と植え茅屋建の家台を仲國の歩くにつれ半廻で見せる趣向、照明の不完全な時代だから月は磨硝子の中に灯を入れそれに日玉火花の叢雲がかゝる工夫をしたのはよいが舞臺中が薄ぐらくて仲國が臺詞につまると作者の歌女助が附けるにも臺本が讀めず臺詞は途切れる、折角の衣裳は薄に遮られるのと暗いのでろくに見えず、結局工夫倒れで苦心だけに報わられなかつた。この場が暗轉で通天の紅葉で雁治郎の牛若が大勢と立廻つて幕になる順序だつたが、四天達が鬘をつけずに出たといふのでまた一騷動だつたといふことである。

このために宗十郎の改良運動も一頓挫を招いた。明治廿一年三月角座の安倍系團唐土傳話で吉備大臣と惠美押勝、右團次の阿部仲麿に切は葛の葉、五月浪花座で玉樹箆箱崎文庫と宿無團七時雨傘で栗山大膳一座は雁治郎荒五郎、六月は角が桂川連理柵の長右衛門右團次のお半と雷お新、七月は夏祭で右團次の團七に釣船の三婦雁兵衛は徳兵衛とお辰、他に宗十郎は重の井を出した。しかし三吉を勤めるのに雁治郎門下の成笑に稽古をつけてみたが氣に入らず、誰か適當のものは無いかと相談してゐるうちに宗十郎が竹田の芝居（辨天座）で寺子屋の小太郎をしてゐる子なれば使へるといふので調べてみると正朝門下の正太郎といふ七歳の子なので正朝も名譽に思ひみつちり仕込むとその三吉がすばらしい出来だつたので褒美に吳羽二重の紋附を贈つたといふ話もあるし、この時の重の井が見馴れぬ型なので自身の工夫か先人の型かと尋ねられると宗十郎は平氣で「衆八の型です」と答へた。「末廣屋ともあるものがいくら上手でも女優者の型を學ぶとは恥ではないか」といふと「女優者でも假帳役者でも役者である限りその長所を採ることは何等恥づ

る所はない」と言ひ放つた。その二つの話から見ても大歌舞伎に限らず宗十郎がどんな芝居にも注目してゐたことが推察される。

角の芝居の九月は稻妻草紙と鬼一法眼三略巻で梅津嘉門と鬼一、十月は浪花座の菅原傳授手習鑑の道明寺より寺子屋と興話情浮名横櫛で覺壽と時平と源藏、右團次の與三郎、鴈治郎のお當に赤間源左衛門だつた。この道明寺で立田を勤めた團之助が貧乏だつたので衣類なども手薄でいつも酒の勢で舞臺へ出る癖があつた。宗十郎が立田が殺されてから吹替を許さなかつたので舞臺へ倒れたまゝ酒を呑んで疲れてしまつたままではよかつたが、駟をかき出したので右團次の管座相も困つて揺り起したことがあつた。それに宗十郎がちつとも叱らないのでそつと聞いてみると「私の前で駟をかいてねるとはよい度胸だ」と言つたので團之助が冷汗を掻いたといふ逸話もある。むづかしい一面こんな太つ腹もあつたのである。角座へ入つた時既に座頭になつてゐたと右團次と位置の均衡に就て仕打が心配してゐると進んで右團次を座頭に推し書出しの鴈治郎もそのまゝにして自ら尻二枚に坐つたこともあり、稽古の時もそれに準じて階段でうっかり右團次に先行しかけて「まあお先きへ」と振返つて讓るだけの度量もあつたのは既に腕に自信ができた上の除裕であらうが、容易に出来ることではない。

十一月京都南の芝居の「和合會我譽富士」で十郎、彫刻左小刀で甚五郎を左團次の五郎と京人形で共演、十二月の角の芝居で同じ會我と平井權八吉原街、戻駕色相肩で唐犬權兵衛を勤め、この興行で和三郎が徳三郎になつた後の六代目彌寛である。

その後、明治廿二年二月、角劇場はけいせい染分綱名大阪巖貞片桐、平家女護島に吉野山で東京下りの我童が且元正行慶政などを演じ右團次は後藤と又五郎狐そして宗十郎は由留木左衛門へ俊寛と眞田幸村だつた。四月は浪花座で伽羅先代萩と桂川連理柵、中狂言に會稽會我後日鉢木で宗十郎は仁木と頼兼と長右衛門、これが最後の舞臺だつた。荒五郎の外記が一癖あるのに對し平凡な敵役の仁木にならなかつたのが流石だといふ評判でこの時は右團次がゐないので當然座頭

の位置で書出しは鴈治郎で高尾松ヶ枝的之助佐野源左衛門お半と長吉、正朝の政岡龜助の八汐、別座に橘三郎がゐる。小十郎騰元北條晴頼日妙玉笹を勤めた。その頃から病氣を得て十月八日五十五歳で世を去つた。戒名は霞仙院釋清節、天王寺墓地に葬つた。

宗十郎が延若と續いて譯したことは關西劇團の大打撃だつた。しかも東京では團菊左ともに健在であり、皮肉にもその午の十一月には木挽町の歌舞技座が落成して堂々と開場したのだつた。

## 結 論

宗十郎は一見識あつただけにとかく理屈つばい性質だつた。所謂一論居士である。だから何かと理屈をいふことを末廣屋といふことさへあつた。東京ではチウツ腹の事を團十郎といふのと同じやうな意味である。宗十郎は加藤秋爽に詩文を學んだと饗庭臯村が書いてゐる。當時の俳優としては智識階級に属した人である。東京俳優を評して左團次論するに足らず、團十郎氣合十分なれど藝未だ至らず、菊五郎の技藝誠に畏るべしと言つたさうである。蓋し團十郎は傾向を同ふしてゐただけに自分の方が信する所があつたやうだが、菊五郎に全然別途に長所があつたために推賞したのだと思ふ。その改良劇は第一步で蹉跌したが角藤定憲は宗十郎の舞臺を見て新派劇を思ひ立つたといひ、川上晋二郎亦彼の藝に刺戟さるものがあつたといふ點に於て改良劇は意外の方向に成果を得たとも言ひ得るのである。舞臺のみならず番附の改良後見の減廢舞臺用尻當の自立たぬやうにすること稽古の簡涉生活の簡易化などに注意したことも傳へられてゐる。

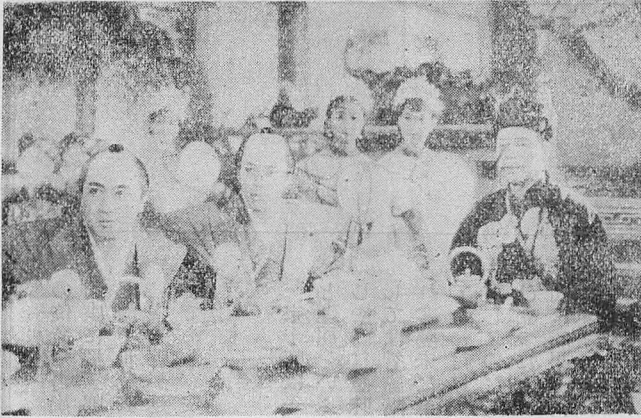
その顔貌に「面長で頬は細く悲しさうなうちに些か艶のある目、つんとした鼻、締まつた口」と評されてゐる。それは多見藏のやうな縮繪的な顔では無かつたかもしれない。しかし明治革新期の俳優といふ心癖へと不屈の氣魄と練達した技能をもつてゐた。傳統的な技巧派である延若に對して進歩的な探究派であつたが、時代の潮流に掉すまでに没したことは上方劇場のため惜しむべきことであつた。(此項終)



松竹京都撮影所作品

# 彌次喜多大陸道中

高田浩吉、藤井真、伏見信子主演  
ポリドール・新興演藝部・特別出演



原案	木村錦花
脚本	柳井隆雄
演出	古野榮作
撮影	杉山政明
録音	杉山政明
配役	
彌次さん	高田浩吉
喜多さん	藤井真
お姫さん	伏見信子
お附の侍左衛門	坪井啓
女役者白富士太夫	花岡三鈴
茶店の女	大河内久
口上師	山口久
小道具係	石原須磨
大道具係	山田正夫
忠告者	堀田正夫
宿の番頭	榎木欣之助
刺客統領	新妻四郎
一味の支那人	勝武郎
女中ツカ	新興演藝部・ミス・ツカナ
風呂たき市助	同・玉松一郎
宮殿の歌手	同・結城道子
同演藝師	同・坊屋三郎
同	同・益田喜頓
同	同・山花利英
同	同・芝山花利英
同踊り子	同・ガンシムグチーム

姫君の唄がきこえて来た。彌次はその美しい聲にすつかり参つてしまった。夜狐が出るといふ杉並木で喜多は彌次を狐と間違ひ発砲したがこれが空鐵砲で命拾ひを落して拾つたのは赤ン坊五十三次赤ン坊抱いて彌次と喜多との足は重たい。困つた揚句旅芝居一座に入り、こゝで彌次さん「赤城の子守唄」を唄つて大人氣宿屋暮しに困つて捨てた赤ン坊の親が此處の風呂炊き夫婦と知れ無事に赤ン坊を返した彌次さん、刺客團の一味に行列を襲はれ單身逃げて来た姫君を助けたのは體の大きい彌多さんだつた。そして二人の氣持は奇麗な姫君になよ／＼となびいて行つた。姫君が何時の内に／＼旅立つたので彌次喜多も旅芝居におさらばして「姫君やあい」と草鞋を履いた。此處は馬關の船着場、姫君を攫はれて消氣であるお供の一行と姫君を尋ねる刺客田が相對してゐる。其處へ出て来たは何處で一語になつたか彌次喜多姫君の三人かくて船着場を背景に奇想天外な大亂闘が始まつた。黒潮蹴つて進む船の中、姫君彌次喜多お供の一行の明らかな顔が見える。此處は日本を遠く離れた大陸豪華な廣内に姫君を前にして彌次喜多が平伏してゐる、この姫君こそ事情あつて日本で成長したこの國の女王様であつたのだ二人こそわらわの命の思人ぢや嬉しゆう思ふぞよ一人はこの姫君の斡旋でこの國で愉快に働くことになつた雄大な大陸風景の中に颯々と突立つた彌次さん喜多さん空まで響けと唄ひまくつた



# 編輯室

◆……十、十一兩月號は都合に依りまして合併、特輯號と致しました、悪からず御諒解願ひます。

◆……零下四十度の酷寒と東洋平和のため日夜御奮闘せられてゐる皇軍の勇士を慰めるために本雜誌は各座出演中の幹部女優達から紙上慰問を掲載致しました。

◆……歌舞伎座に久振りに出演の東京大新派團を始め、中座の家庭劇、角座 新舊合同劇、浪花座の新興演藝部などて非常に賑

ひ各俳優も非常なハリキリ方で本誌も活氣を呈しました。

◆……食満南北、中井駿二、永田衡吉、吉本寛汀先生らの御高見にて特輯號に相應はしい讀物ばかりです。

◆……本誌道頓堀も年々隆昌になつて行きますが、これも、ひとへに寄稿下された先生方や讀者様の御後援の賜と深く感謝申し上げます。

◆……十二月號は劇壇の總決算月で、京都南座の東西顔見世特輯として本年最終號を發行し、諸先生の玉稿を頂き誌面を飾ることにしました、絶大の御期待をお願ひします。(萬代生)

道頓堀 第五百拾六錢

定價 一部 金參拾錢  
(送料 壹圓錢)

半年 六冊 金壹圓八拾錢  
一年 十二冊 金參圓參拾錢  
(送料 共)

▼廣告取扱 大阪電報通信社  
北區中之島二丁目

▼廣告の御用は「電通」又は當編輯部へ御申附の事

昭和十四年十一月十日印刷納本  
昭和十四年十一月十五日發行

大阪市南區久左衛門町八番地  
松竹株式會社大阪支店內

發行兼 鳥江 鏡也  
編輯人

大阪市東區農人橋二丁目  
印刷所 藤本印刷所  
電東(一七〇番 七七〇番)

大阪市西區土佐堀通り一ノ一五  
發賣元 株式會社大阪參文社

大阪市南區久左衛門町八番地  
松竹株式會社大阪支店內

發行所 道頓堀社  
大阪市南區大寶寺町仲之町六一

道頓堀編輯部





も傑來流  
大評作て行  
判判と早以歌  
ノくくの出

壓倒的な  
ヒット!!

歌行流

つづく造虎

# 吉仁の良吉

奴ち美 唄

詩作・朗 四 原 萩  
曲作・朗 五 下 山  
曲編・夫 春 脇 宮

奴ち美形人さけお 画片



ドーコレクチイテ





# 御婚禮の 御支度は

相生の松も目出度く  
鶴龜の千代萬代を壽  
ぐ御婚禮は一代の華  
かな御盛儀の事とて  
御支度は殊の他懸命  
におつとめさせて頂  
きます



小出政子擔當

そごう美容室 ★ 丹平美容室

午前9時 → 午後6時

午前9時 → 午後6時

昭和十四年十月廿五日第三種郵便物認可  
昭和十四年十一月十日印刷(毎月一回)  
〔道頓堀〕第十四号第百五十六号  
昭和十四年十一月十五日發行(十五日發行)  
昭和十四年十一月十五日發行(十五日發行)  
昭和十四年十一月十五日發行(十五日發行)

〔道頓堀〕  
第十四号 第百五十六号

壹部 定價 金參 拾 錢